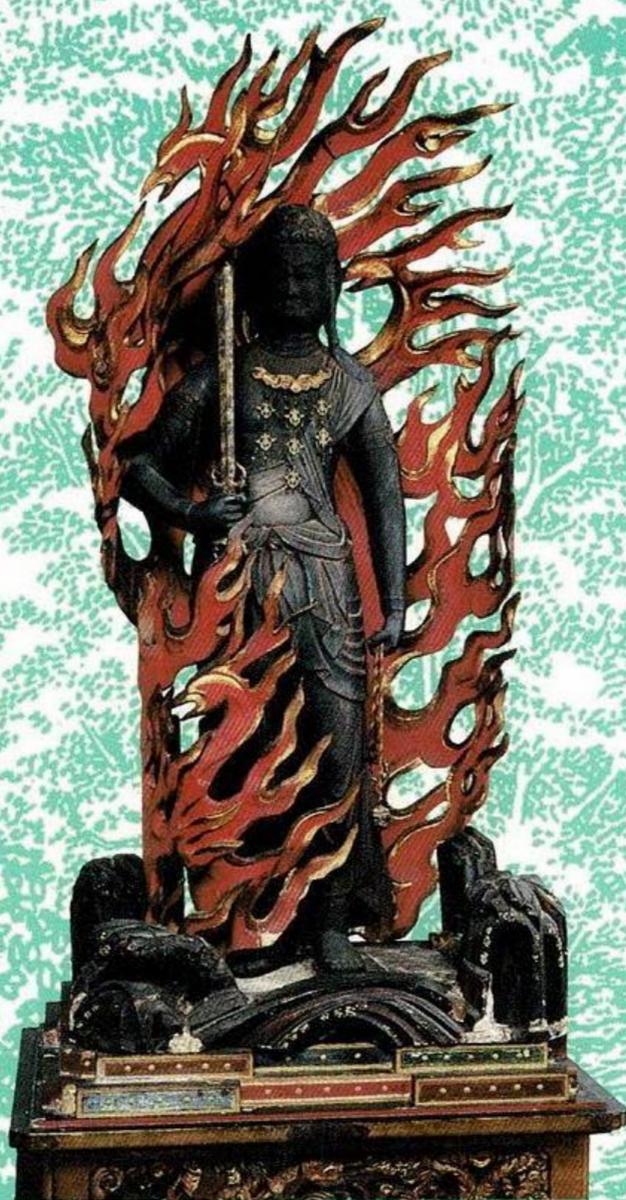




# しずらの文化財

— 指定文化財 —



宍粟郡文化協会連絡協議会

# しそこの文化財

宍粟郡文化協会連絡協議会

会長 壺 阪 壽

私等の故郷である宍粟郡は大変古い歴史を持っています。従って郡内には文化的に貴重な多くの文化財があります。

今迄にもそれ等の中から国とか県の指定文化財になったり、又町の指定になっているものも数多くあります。

勿論、郡内の5町にもその町内に所在する文化財を収録した冊子を刊行しておられますが、郡内を一つに纏めたものを創ろうと、今度5町の文化協会が協力して計画し、それを具体的に進めるための編集委員を各協会から出してもらい、作業が進められました。

ひとくちに文化財と申しましても、建造物もありますし、美術工芸品、無形民俗文化財、遺跡、天然記念物等々様々のものがありますが、それらの財を出来るだけ分かり易く分類していただきました。

私等宍粟に住む者が自分の住んでいる地域にどんな文化財があるのかということを知ることは勿論大事なことです、同時にそれ等の財をきちっと保存し後世に伝えてゆくことも忘れてはならないことだと思います。

今度刊行された此の冊子が郡内は勿論のことですが、広く郡外の方々にも読んでいただき、宍粟を良く知っていただく一助になれば幸いです。

尚最後になりましたが、此の冊子の編集に当たられました委員の皆様方の御苦勞に対し心より感謝申し上げます。

## 各町指定文化財数と目次

指定 町名	国	県	町	計	頁
山崎町		7	14	21	1~14
安富町	4	5	15	24	15~31
一宮町	1	6	23	30	32~50
波賀町		2	16	18	51~60
千種町		3	23	26	61~75
合計	5	23	91	119	

### 表紙写真説明

位置	名称	所在地	備考
左上	木造不動明王立像	安富町	光久寺保存
左下	天児屋鉄山跡	千種町	鉄山跡遺構
右上	上野波賀城蹟	波賀町	山頂に石垣遺構
右中	大歳神社のフジ	山崎町	通称 千年藤
右下	家原遺跡	一宮町	竪穴住居跡等複合遺跡



山 崎 町

## 指定文化財一覧（山崎町）

番号	指定	種別	名称	所在地	頁
1	県	美考	青木銅鐸	山崎町鹿沢81	1
2	県	史跡	青木銅鐸出土地	山崎町青木1020-3	2
3	県	史跡	金谷山部古墳	山崎町金谷886	3
4	県	天然	大倭物代主神社のスギ	山崎町下牧谷299	4
5	県	天然	大歳神社のフジ2本	山崎町上寺122	5
6	県	天然	山崎八幡神社のモッコク	山崎町門前174	6
7	県	天然	岩上神社の夫婦スギ	山崎町上ノ1495	7
8	町	建造	山崎藩陣屋門（紙屋門）と左右の土塀	山崎町鹿沢82	8
9	町	美古	山崎八幡神社文書「新町申付書」	山崎町鹿沢81	8
10	町	美古	山崎八幡神社文書「市日の定書」	山崎町鹿沢81	9
11	町	美古	山崎藩覚帳82冊	山崎町鹿沢95-1	9
12	町	無民	宇原岩田神社奉納獅子舞	山崎町宇原929	10
13	町	名勝	与位の洞門	山崎町与位1-1	10
14	町	名勝	比地の滝	山崎町上比地	11
15	町	天然	矢原神社の大スギ	山崎町矢原73	11
16	町	天然	与位神社の大スギ	山崎町与位529-1	12
17	町	天然	高下諏訪神社大スギ	山崎町高下1277	12
18	町	天然	大沢五社神社の大シラカシ	山崎町大沢936	13
19	町	天然	塩田明証寺のイワヒバ群生地	山崎町塩田688-7	13
20	町	天然	桓武伊和神社の社叢	山崎町中野1116	14
21	町	天然	巖石神社の夫婦ヒノキ	山崎町下町74	14

兵庫県指定文化財  
〈美術工芸品－考古資料〉

所在地 山崎町鹿沢81番地

所有者 文化庁

指定年月日 昭和52年3月29日

よん く かく け さ だすき もん どうたく あお き どうたく  
「四区画袈裟櫛文銅鐸」(青木銅鐸)



昭和35年山崎町青木の山すそで農作業中に発見され、通称「青木銅鐸<sup>あおき どうたく</sup>」とよばれている。

銅鐸の高さは31.7cm、身の両面が斜格子帯で四こまずつに区画された、袈裟櫛文<sup>け さだすきもん</sup>の古式な小型銅鐸で、身の一区画に双様渦卷文<sup>ちゅう</sup>が残っており、紐の両面の文様には鋸齒文<sup>きょしもん</sup>と連続渦卷文の違いが見られる。

兵庫県指定文化財  
〈史 跡〉

所在地 山崎町青木1020番地の3  
所有者 梶間公平  
指定年月日 昭和52年3月29日

あおき どうたく  
「青木銅鐸出土地」



弥生時代中期の銅鐸出土遺跡。

昭和35年（1960）12月14日ブドウ畑開墾中に、表面直ぐ下に埋もれた銅鐸を作業員が発見した。その場所は県道山崎南光線の北約300mの位置で、揖保川の支流菅野川西岸部、標高140mの丘陵中腹傾斜面であった。

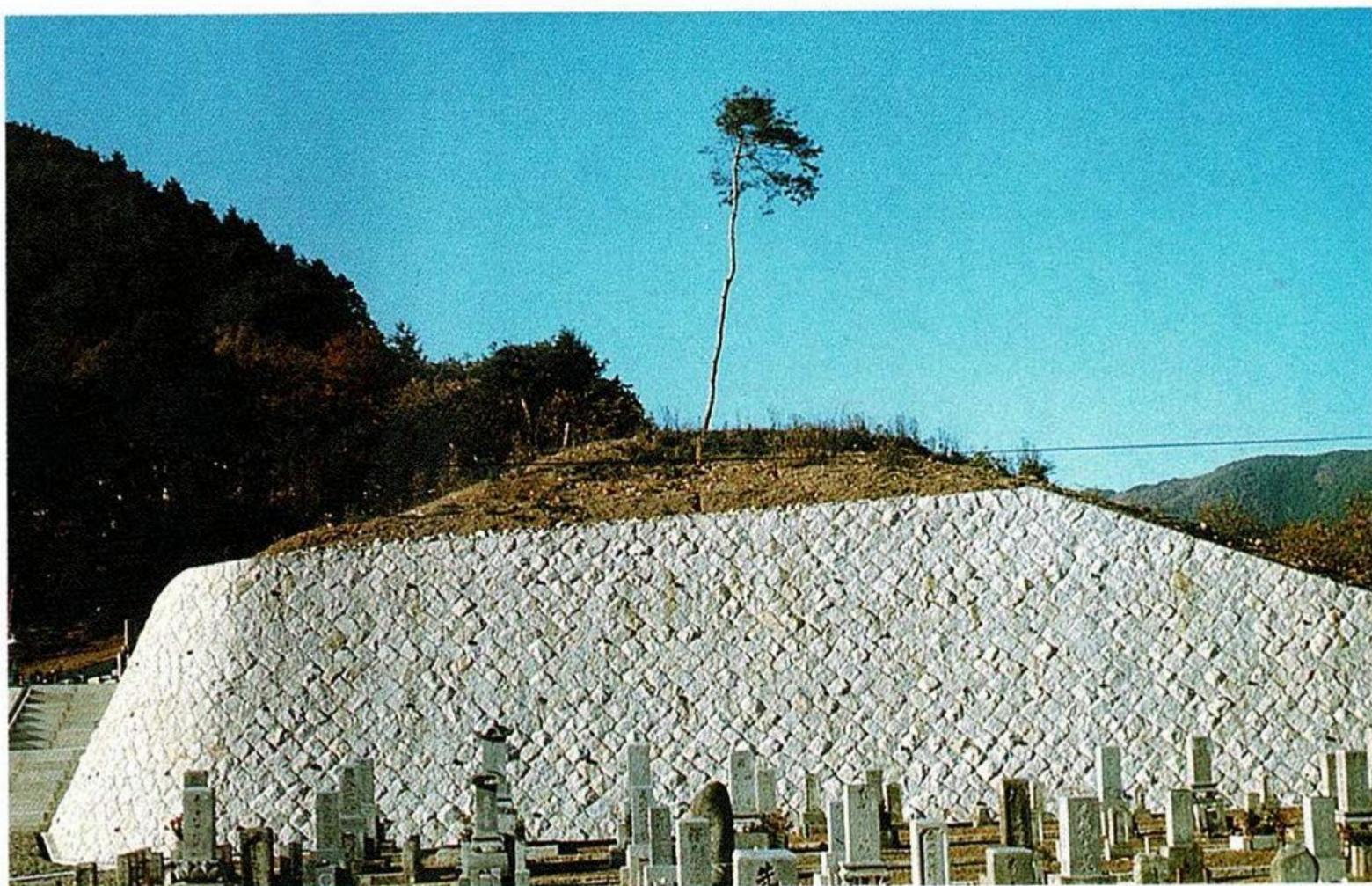
発見された状況は、高さ30cm、幅50cm、長さ35cmの石に接し、傾斜面に沿った表土のすぐ下に埋められたものであるなどが判っている。

弥生時代の播磨内陸部を東西に貫く「銅鐸の道」上にあり、宍粟の文化を研究する上で貴重な遺跡である。

兵庫県指定文化財  
〈史 跡〉

かな や やま べ  
「金谷山部古墳」

所在地 山崎町金谷886番地の1  
所有者 山崎町  
指定年月日 昭和53年3月17日



この古墳は、国見山の東尾根先端部に築かれており、今から1500年ほど前、古墳時代中期の円墳とされている。

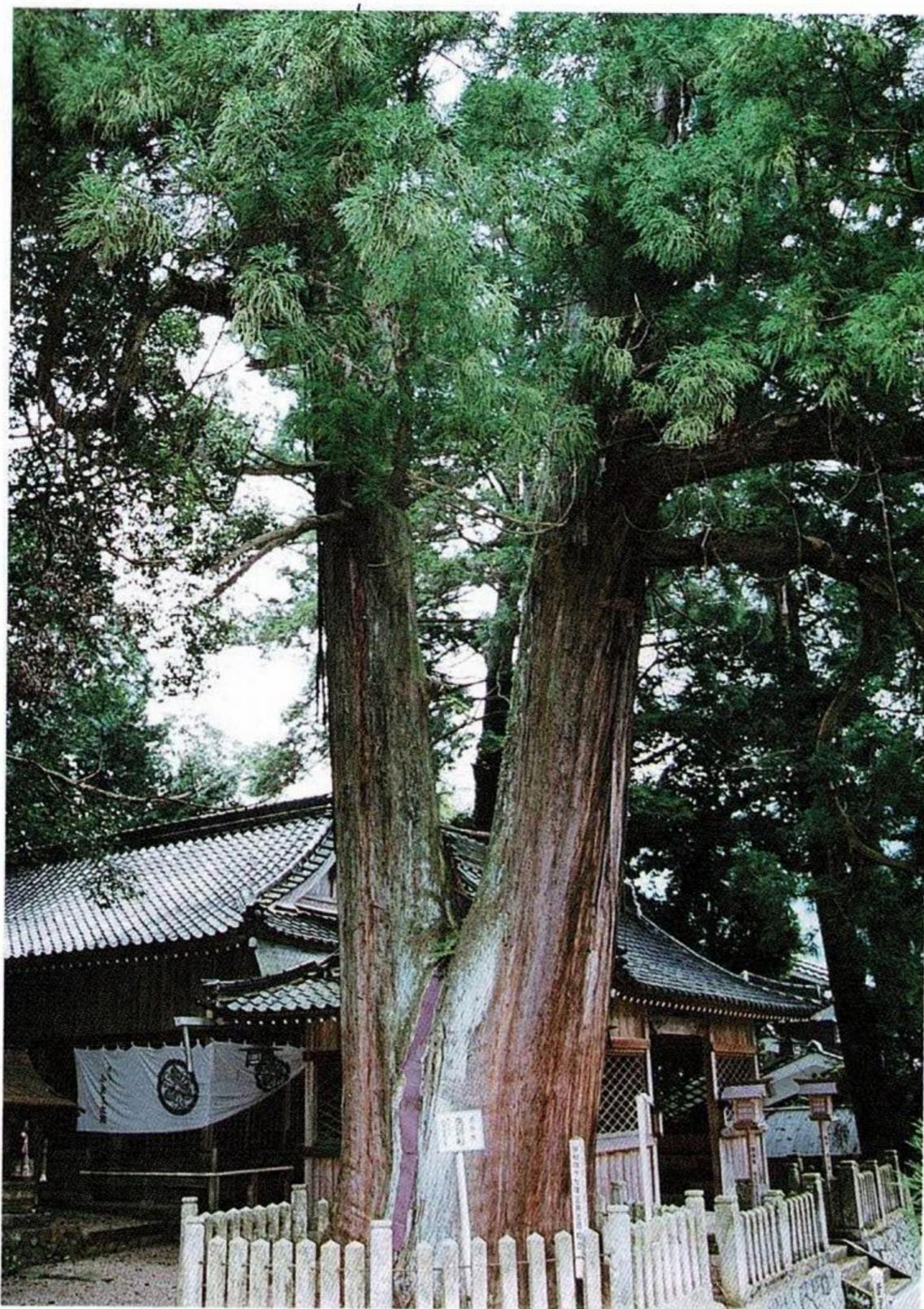
墳形は南北に長い楕円形で、長径20m、短径14m、高さ1.5mの規模。

周辺の金谷台地からは、石器や弥生式土器片などが出土、南方1000mには金谷群集墳があり、東方揖保川までの平坦部には千本屋廃寺跡や条里跡など遺跡も多く、これらを眼下に望んでいる。

兵庫県指定文化財  
〈天然記念物〉

所在地 山崎町下牧谷299番地  
所有者 大倭物代主神社  
指定年月日 昭和47年3月24日

おおやまともものしろぬし  
「大倭物代主神社のスギ」  
(夫婦スギ)



元来、スギはまっすぐに伸び、巨木となって神さびた感じを人に与えるところから、神スギとされる例が多く見られ、このスギもこの神社の神スギとしてあがめられている。

根回りは9.6m、目通り幹囲は8.2mで、高さ4mほどのところで2本に分かれ、「夫婦スギ」となっており、樹高は北側の幹が約40mで、南側の幹は約36m。推定樹齢650年。

また、このスギは同じく県指定の千種町河内「中宮神社のスギ」や、安富町関「水尾神社のスギ」とともに郡内でのスギの三巨木の一つにあげられているものである。

兵庫県指定文化財  
〈天然記念物〉

所在地 山崎町上寺122番地

所有者 大歳神社

指定年月日 昭和47年3月24日

ださい  
「大歳神社のフジ2本」



「村上天皇時代の天徳4年（960年）上寺村の与右衛門が植えし」と伝えられている通称「千年フジ」。種類は花房が1 m以上にも伸びるノダフジで、5月の花期の美観は誠に素晴らしく、毎年この時期に「藤まつり」が行われている。

大きさは根回り約2.8m、目通り幹囲約3 m、樹高約2.8mで幹は10本ほどが束になっている。枝張りの面積は約360㎡にもおよび境内のほとんど全部覆う状態である。

この「大歳神社のフジ」はその巨大さにおいて、岩手県「藤島のフジ」や埼玉県「牛島のフジ」など全国にある国指定八件のいずれのフジと比べても、ほとんど見劣りしないと言われている。

兵庫県指定文化財  
〈天然記念物〉

所在地 山崎町門前174番地  
所有者 山崎八幡神社  
指定年月日 昭和52年3月29日

やまさき  
「山崎八幡神社のモッコク」



社伝によると、樹齢は約700年、応仁元年（1467）神霊鎮座の勸請木（神を迎える木）<sup>かんじょうぼく</sup>であって、自然木のままで大切に保存し、崇敬されてきたものである。<sup>すうけい</sup>

根回り、目通り幹囲とも2.25m、樹高13m。枝は東へ約6.2m、西へ約6m、南へ5.5m、北へ5.7mの範囲に広がっている。元来、モッコクは暖かい地方の海岸に自生するツバキ科の常緑木で成長の遅い木であるが、山崎の地でこれだけの大木に育ち、今も元気に成長を続けているのは珍しい。

兵庫県指定文化財  
〈天然記念物〉

所在地 山崎町上ノ1495番地

所有者 岩上神社

指定年月日 昭和61年3月25日

いわがみ  
「岩上神社の夫婦スギ」



本樹は、岩上神社山門入口にあり、2本とも同じ太さの双幹樹の巨木としては極めて稀なものである。

樹種はスギ科、根回り9.50m、目通り幹囲8.65m、樹高約45m、推定樹齢400年。また境内にはたくさんのスギ、ヒノキ、トチノキなどの巨木や、シオジ、イタヤカエデ、ウラジロガシなどがあり、樹陰にはオオクジャクシダ、ヤブレガサ、タイミンガサ、クマワラビ、ベニシダ等がある。植物の宝庫でもある。

山崎町指定文化財 〈建造物〉

やまさきはんじん やもん かみやもん

## 山崎藩陣屋門（紙屋門）と左右の土塀



所在地 山崎町鹿沢82番地

所有者 山崎町

指定年月日 昭和60年2月14日

この門は2本の主柱（鏡柱）と控柱で構成された高麗門である。建築年代は不明だが、建築寄贈者「紙屋」の盛時や他の記録から推して嘉永～安政期の1850年代と考えられる。

門の左右の塀は、低い石積みの上に土を積んだ土塀で、その上に屋根が掛けてあり、この築造は門より古く、本多氏入封の延宝7年（1679）以前からのものである。

また、これら門・土塀の屋根には、旧山崎藩主本多家の家紋「立葵」を入れた軒丸瓦が載っている。

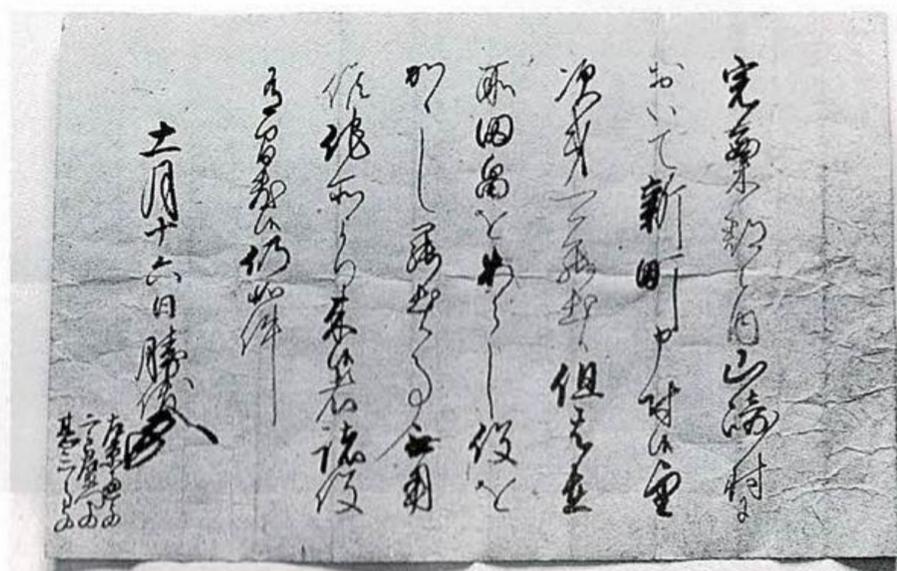
山崎町指定文化財 〈美術工芸品—古文書〉

## 山崎八幡神社文書「新町申付書」

所在地 山崎町鹿沢81番地

所有者 山崎八幡神社

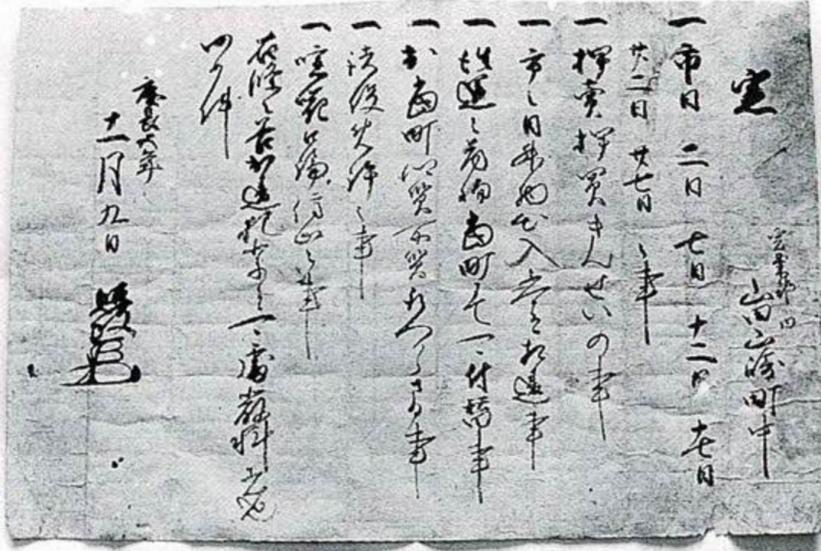
指定年月日 昭和60年2月14日



天正15年（1587）宍粟の地を所領に加えた龍野城主木下勝俊が、郡の中心的な町づくりを考えて、篠山（篠の丸城のあった山）南麓の、当時の山崎村と隣村山田村とを合わせ、一筋となる町並みづくりを下知したものである。

山崎町指定文化財 〈美術工芸品—古文書〉

## 山崎八幡神社文書 「市日の定書」



所在地 山崎町鹿沢81番地

所有者 山崎八幡神社

指定年月日 昭和60年2月14日

慶長5年（1600）姫路52万石を領して、宍粟郡を支配するようになった池田輝政が室町時代中ごろから一般化し、月に6度の日切市の方法を取り入れて、木下勝俊時代に作られた新町の「山田山崎町」に市日を定めたもので、ここを宍粟郡における商品流通の拠点とする考えを示したもの。

山崎町指定文化財 〈美術工芸品—古文書〉

## 「山崎藩覚帳 82冊」

所在地 山崎町鹿沢95番地の1

所有者 財本多記念館

指定年月日 昭和60年3月9日



山崎藩主本多氏の支配は、延宝7年（1679）から廃藩置県の明治4年（1871）まで、192年間続いた。「覚帳」は、その山崎藩の藩庁日誌。うち現存するものは天明年間から慶応年間までのもの82冊で、山崎日誌と江戸日誌とに分かれている。

覚帳の内容は、藩政中心に書かれており、番方（家臣団や軍事）や役方（行政）を主に、藩政と関係深い町方（町人まち）・地方（農村）や寺社方の動向にもふれ、また国元（山崎）・江戸の表方（執務所）や奥方（藩主家庭）のことまで、詳細に記録されている。

山崎町指定文化財〈無形民俗文化財〉

うはらいわた  
「宇原岩田神社奉納獅子舞」



所在地 山崎町宇原929

所有者 宇原 岩田神社

奉納獅子舞保存会

指定年月日 昭和62年10月8日

舞の種類は神楽・曲舞・刀・梯子など11種類。舞は低い姿勢のものが多く、生きている獅子のように舞うのが特色である。

また梯子獅子の伝承は稀少価値が高く、「山崎藩覚書帳」には安政5年(1858年)に山崎藩主本多忠明が肥前守に任ぜられたその祝賀会しゅくがえで、この獅子舞(梯子獅子)が披露されたという記録が残されている。

山崎町指定文化財〈名勝〉

よい  
「与位の洞門」



所在地 山崎町与位1番地の1

所有者 山崎町与位生産森林組合

指定年月日 昭和60年2月14日

古老の話では、最初にすいどう隧道が掘られたのは明治36年ごろで、2年間を費やしたとのこと。ついで昭和初年には荷車が通るように広げられ、さらに昭和43年現状に改修された。

かつては、揖保川沿いの交通の難所で、川に面した岩端には、今も栈橋の腕木を差した四角い穴が残っている。

対岸からの景観は、たいへん素晴らしい。

山崎町指定文化財 〈名 勝〉

## 「比地の滝」

所在地 山崎町上比地

所有者 山崎町上比地自治会

指定年月日 昭和60年2月14日

この滝は、上比地地区から山あいを西へ約500mほど入った所にある。

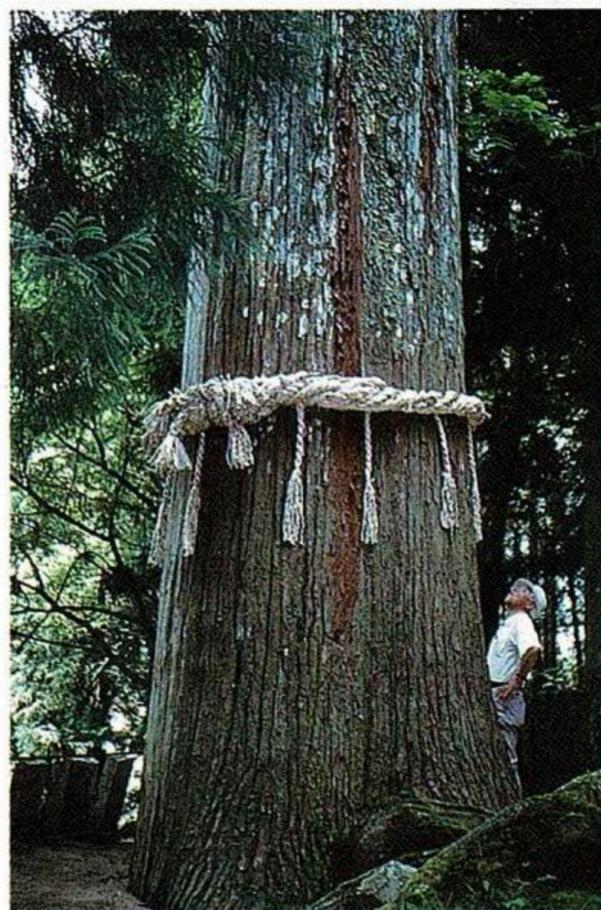
『兵庫県宍粟郡誌』（1923）には、「此滝は俗に九十九谷の水を受くると称する程なれば、盛夏旱魃の際にも枯渴することなし」と、水量の豊富さが記され、陰暦7月7日の未明には白い鰻が滝を登るとの伝説も残されている。

約15mの落差をもち、景観もたいへん素晴らしい。



山崎町指定文化財 〈天然記念物〉

## やばら 「矢原神社の大スギ」



所在地 山崎町矢原73番地

所有者 矢原神社

指定年月日 昭和60年2月14日

本樹は矢原神社境内に自生しており、宍粟郡内においても第一級の巨木である。風雪を凌ぎ、隆々と伸びた姿は極めて美しい。

樹種スギ科、根回り6.30m、目通り幹囲4.63m、樹高約40m、推定樹齢500年。

山崎町指定文化財〈天然記念物〉

よ い  
「与位神社の大スギ」

所在地 山崎町与位529番地の1

所有者 与位神社

指定年月日 昭和60年2月14日

本樹は、与位神社境内にあり、宍粟郡内においても第一級の巨木である。現在もなお樹勢は旺盛で、まっすぐに伸びた美しさをもっている。

樹種スギ科、根回り6.8m、目通り幹囲4.68m、樹高約40m、推定樹齢400年。



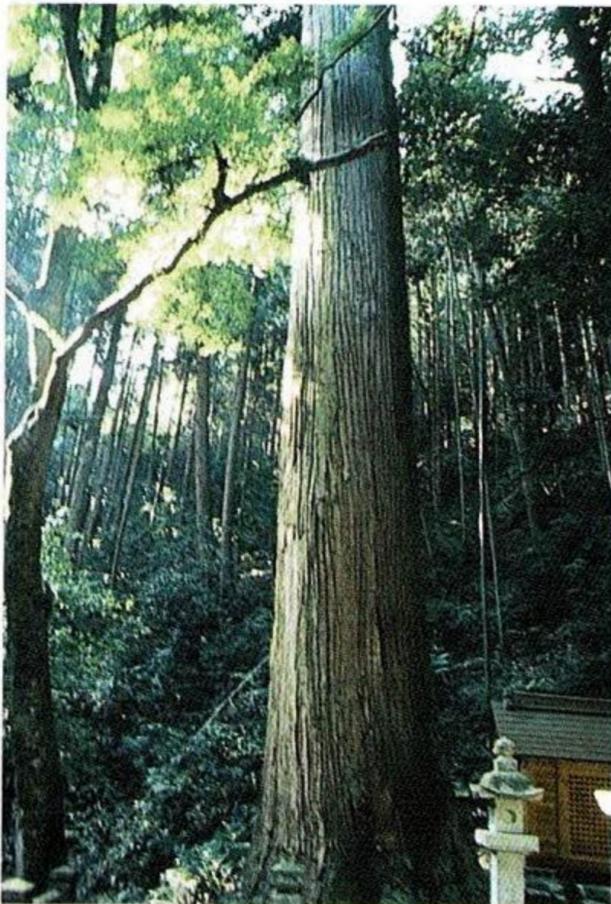
山崎町指定文化財〈天然記念物〉

こう げひがしす わ  
「高下東諏訪神社の大スギ」

所在地 山崎町高下1277番地

所有者 高下東諏訪神社

指定年月日 昭和60年2月14日



本樹は、高下東諏訪神社境内にあり、この地域には稀な単幹の巨木である。

樹種はスギ科、根回り7.3m、目通り幹囲5.25m、樹高約50m、推定樹齢500年。

スギの語源は「直ぐの木」に由来するといわれるが、真っ直ぐに高く伸び上がっている姿は実にその感を強くする。

山崎町指定文化財 〈天然記念物〉

おおさわ ごしゃ  
「大沢五社神社の大シラカシ」

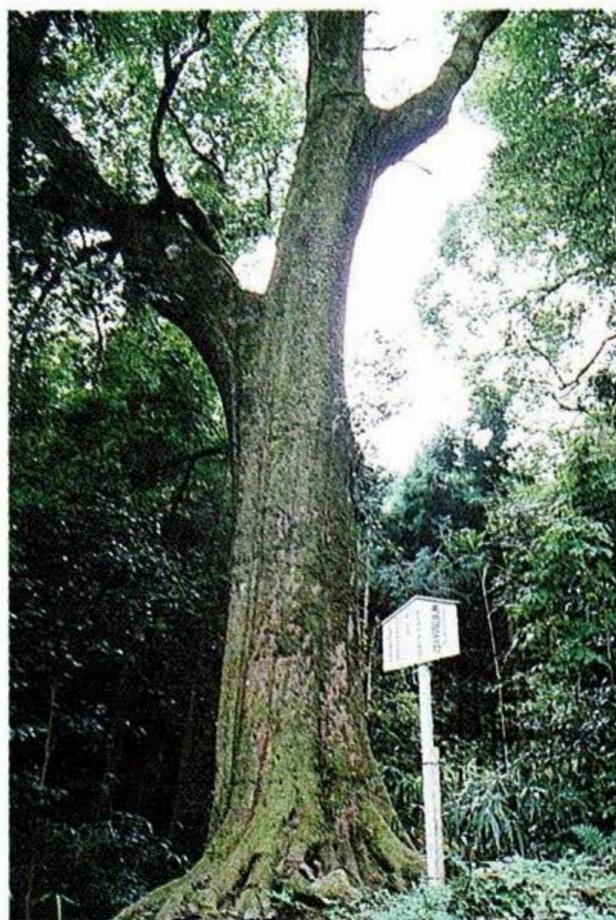
所在地 山崎町大沢936番地

所有者 五社神社

指定年月日 昭和60年2月14日

大沢五社神社の境内にはシラカシの群生林がある。特に、本樹は社殿南側に自生する巨木で、樹勢は極めて旺盛。

樹種はブナ科、根回り6.00m、目通り幹囲4.30m、樹高約30m、推定年齢300年。



山崎町指定文化財 〈天然記念物〉

しお たみょうしょうじ  
「塩田明証寺のイワヒバ群生地」



所在地 山崎町塩田688番地の7

所有者 明証寺

指定年月日 昭和60年2月14日

明証寺境内東側の岩壁約300㎡に、数千株のイワヒバが自生している。なかには大きいもので高さ30cmの株がある。多年生常緑草本であるイワヒバが、このような人里近くに群生していることは極めて稀である。

また、イワヒバ以外にもツメレンゲ・ツタ・ユキノシタ・ツツジ・ナンテン・シノブ・ジャノヒゲ・ノキシノブ・ヤブラン・キヌゴケ・ハイゴケ・アカマツ・地衣類等も自生している。

山崎町指定文化財 〈天然記念物〉

かんむいわ しゃそう  
「桓武伊和神社の社叢」

所在地 山崎町中野1116番地

所有者 桓武伊和神社

指定年月日 昭和60年2月14日



桓武伊和神社の社叢は、保存状態がよく、暖帯樹林として、シラカシ・アラカシ・イチイガシ・スギ・タラヨウ・ヤブツバキ等の樹木や、ハチジョウザサ・チトセカズラ・フウラン等の珍しい草本類も群生し、生物学上非常に珍しいものである。

面積 11,144㎡

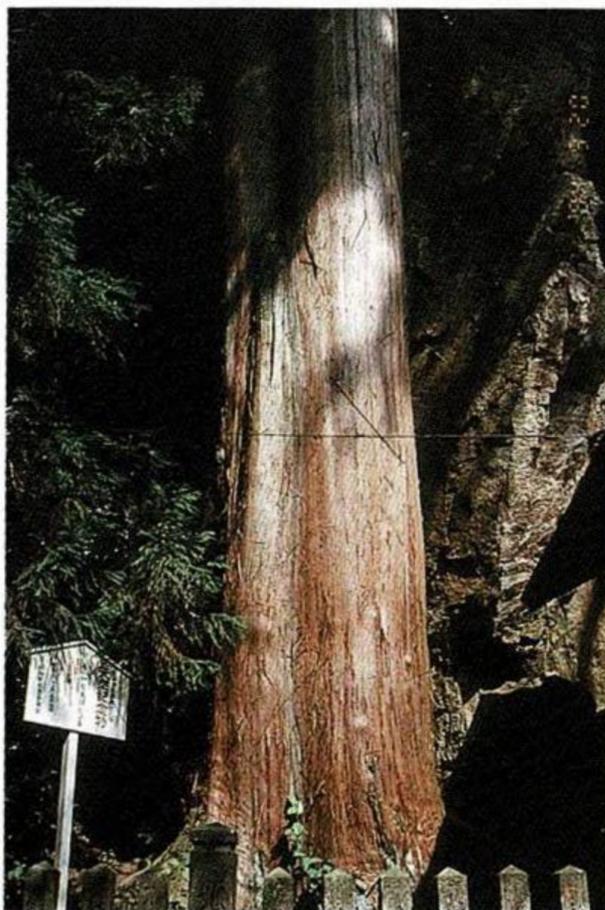
山崎町指定文化財 〈天然記念物〉

がんせき  
「巖石神社の夫婦ヒノキ」

所在地 山崎町下町74番地

所有者 巖石神社

指定年月日 平成4年11月21日



本樹は、巖石神社境内にあり、成長の遅いヒノキとしては県下においても第一級の巨木である。

根本から9mのところまで2本に分かれ、巨岩を背後にまっすぐ伸びた樹形は極めて美しく威厳に満ちている。

根回り6.50m、目通り幹囲4.30m、樹高約40m、推定樹齢250年。



# 安 富 町

## 指定文化財一覧（安富町）

番号	指定	種別	名称	所在地	頁
1	国	建造	古井家住宅（千年家）	安富町皆河236-1	15
2	国	絵画	第二尊者 迦諾伐蹉尊者像	京都市東山区	16
3	国	絵画	第十六尊者 注茶半託迦尊者像	京都市東山区	17
4	国	彫刻	木造不動明王立像	安富町安志481	18
5	県	建造	石造五重塔	安富町名坂204	19
6	県	史跡	塩野六角古墳	安富町塩野	20
7	県	名勝	鹿ヶ壺	安富町関	21
8	県	天然	植木野天神のムクの木	安富町植木野330	22
9	県	天然	水尾神社の大スギ	安富町関554-1	23
10	町	建造	水尾神社本殿（付）棟札	安富町関554-1	24
11	町	彫刻	木造薬師如来坐像	安富町安志536	24
12	町	彫刻	木造釈迦如来坐像	安富町名坂305	25
13	町	無民	関の万灯	安富町関	25
14	町	史跡	塩野岡ノ上群集墳	安富町塩野	26
15	町	史跡	稲垣子華墓	安富町名坂305	26
16	町	史跡	三森城址	安富町三森	27
17	町	天然	鹿ヶ壺甌穴	安富町関	27
18	町	天然	ヒメハルゼミ生息地（水尾神社社叢）	安富町関554-1	28
19	町	天然	矢倉神社のツクバネガシ林	安富町皆河858	28
20	町	天然	朽原天神のシイ林	安富町朽原231	29
21	町	天然	狭戸大歳神社のカヤ林	安富町狭戸	29
22	町	天然	関の大カツラ 2株	安富町関790-84	30
23	町	天然	善照寺のショウフクジザクラ	安富町皆河1073	30
24	町	天然	塩野大歳神社社叢	安富町塩野744	31

国指定文化財  
〈建造物〉

ふるいけじゅうたく せんねんや  
「古井家住宅 (千年家)」

所在地 安富町皆河236-1

所有者 古井輝男

指定年月日 昭和42年6月15日



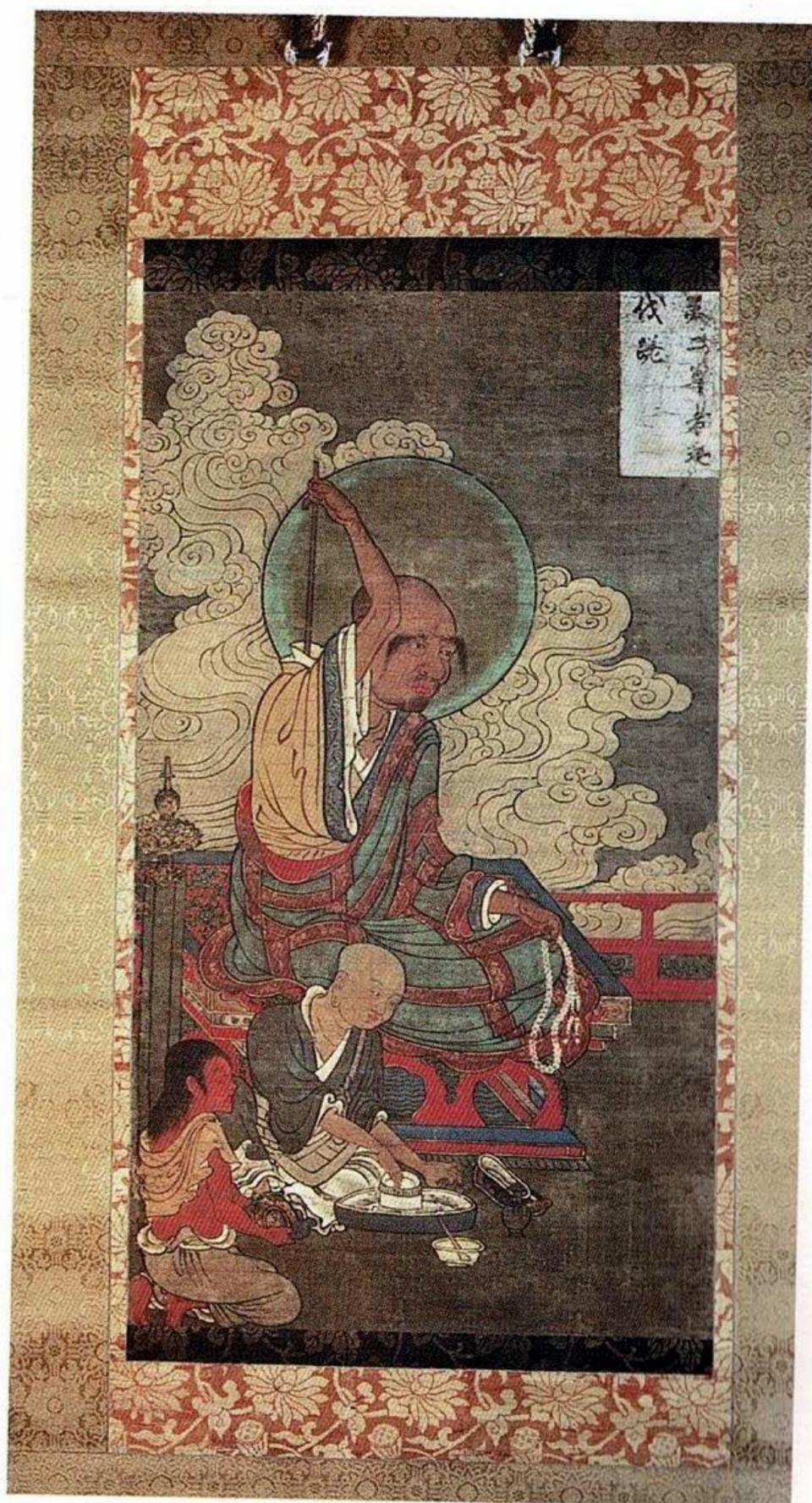
千年家の由来は寿永年間（1182～1184）とみられるが全て資料根源がなく詳びらかではない。建物の建立期は明確ではないが、構造技法を調査の結果室町末期頃まで遡<sup>さかの</sup>ぼる建築と推定され、全国で一、二を争う古建築である。

国指定文化財  
〈絵画〉

所在地 京都市東山区大和大路七  
条上ル 国立京都博物館

「第二尊者 かなかばつさそんじゃぞう  
迦諾伐蹉尊者像」

所有者 叻光久寺保存会  
指定年月日 昭和25年 8月29日



絹本著色 仏画軸一幅

李竜眼風をもって画かれた羅漢像の好例で、南北朝時代の作である。

国指定文化財  
〈絵画〉

所在地 京都市東山区大和大路七  
条上ル 国立京都博物館

「第十六尊者

ちゆだぼんだかそんじゃぞう  
注茶半託迦尊者像」

所有者 財光久寺保存会

指定年月日 昭和25年8月29日



絹本著色 仏画軸一幅

李竜眼風をもって画かれた羅漢像の好例で、南北朝時代の作である。

国指定文化財

〈彫刻〉

もくぞう ふ どうみょうおうりつぞう  
「木造不動明王立像」

所在地 安富町安志481

光久寺

所有者 財光久寺保存会

指定年月日 昭和25年8月29日



光久寺本尊 高倉天皇恩賜の仏像  
本体檜材一本造り 古色彫眼  
像高126.6cm (四尺一寸八分)  
平安時代末期

兵庫県指定文化財  
〈建造物－石造〉

せきぞう ごじゅうのとう  
「石造五重塔」

所在地 安富町名坂204  
今念寺  
所有者 円山快廣  
指定年月日 昭和41年3月22日



基礎より第五層の屋根まで約2mで創建当初のままであるが相輪の部分が紛失、現在は他の石を乗せている。

塔身には正面に観音像、二方に梵字、後に銘文が刻まれている。

弘安三年建立（1280年）鎌倉時代

兵庫県指定文化財  
〈史 跡〉

しおのろっかくこふん  
「塩野六角古墳」

所在地 安富町塩野字岡ノ上

所有者 松井策夫

指定年月日 平成7年3月28日



径10mの六角形墳である。封土の流出で横穴式石室の天井石や側石が露出している。石室は4.4m×1.1mあり、古墳時代後期末か終末期の築造になることが推定されている。

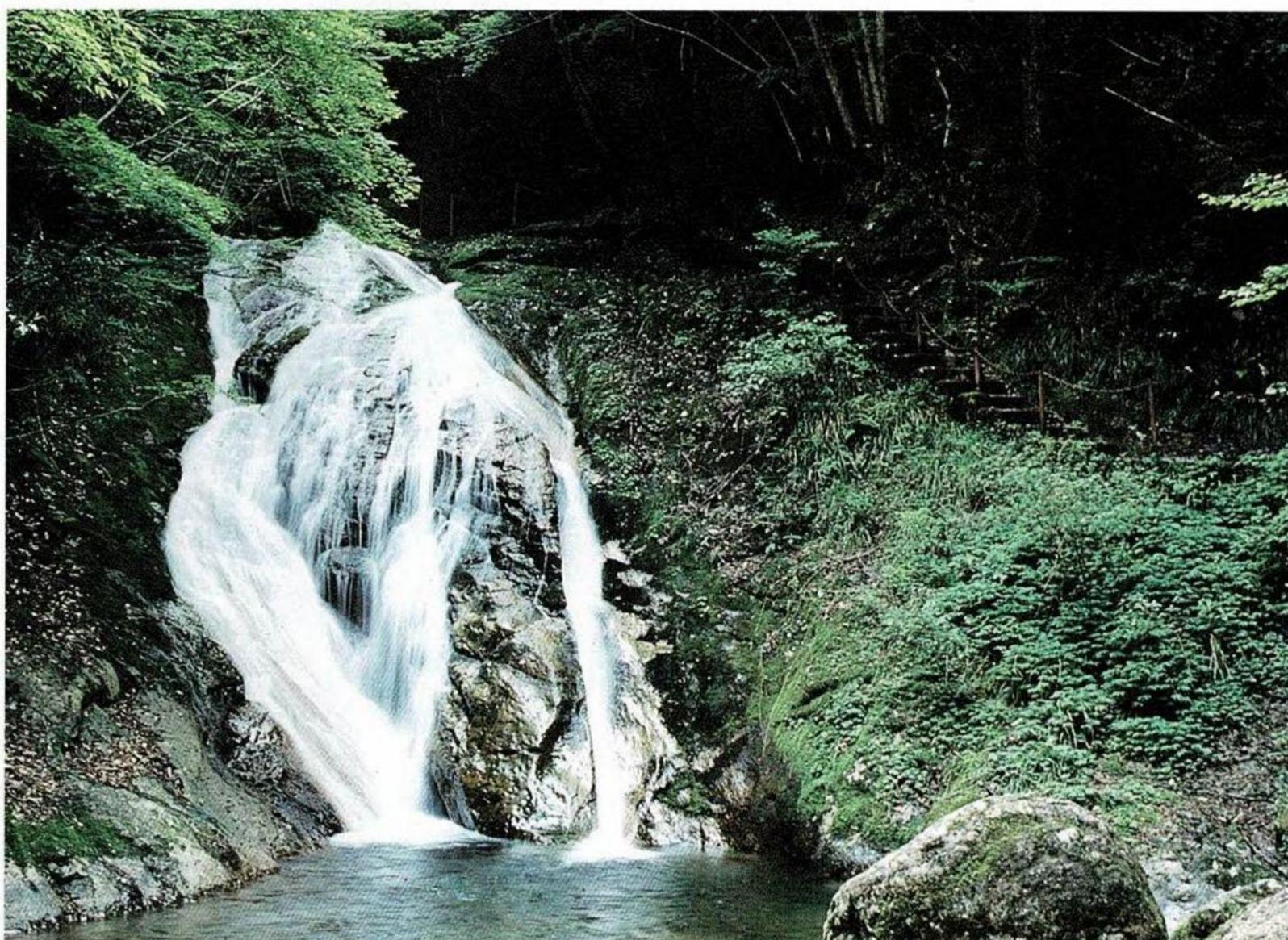
兵庫県指定文化財  
〈名 勝〉

所 在 地 安富町関字坪ヶ谷

所 有 者 松下和彰

指定年月日 昭和44年3月29日

しか が つぼ  
「鹿 ケ 壺」



溪谷の岩床が長い年月の間に浸食されてできた<sup>おうけつ</sup>罅穴が大小数十個連なっている。  
この壺の名称は、一番上側の<sup>おうけつ</sup>罅穴がちょうど鹿の寝姿に似ていることに由来している。  
最も大きなものは水深が5 m余りにも達し、底なし壺と呼ばれ、はるか遠く瀬戸内の海  
に通じているという伝説がある。

兵庫県指定文化財  
〈天然記念物〉

うえきのてんじん  
「植木野天神のムクの木」

所在地 安富町植木野330  
所有者 植木野天満神社  
指定年月日 昭和49年3月22日



根周り10.5m、樹齢約600年といわれるこの木は老木の風格を備え、見事に整った樹勢は県下有数の巨木として価値が高い。

目通り幹囲6.2m 樹高18.6m 枝張り東8m、西10.1m、南13.2m、北8.5m

兵庫県指定文化財  
〈天然記念物〉

所在地 安富町関下字セキ554-1

所有者 水尾神社

指定年月日 昭和52年3月22日

みずおじんじゃ  
「水尾神社の大スギ」

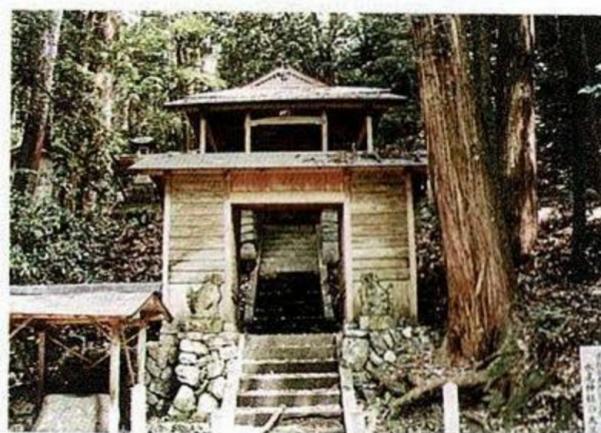


水尾神社は暦応元年（1338年）に建てられた古い神社といわれ、神木として植えられたこのスギの木は樹幹が美しく樹勢は盛んで、根回り10m、樹齢約600年といわれる大きなものである。

目通り幹囲5.8m 樹高50m 枝張り東8.7m、西11.6m、南11.5m、北6m

安富町指定文化財 〈建造物〉

みず お じん じゃ ほん でん む な ふ だ  
「水尾神社本殿 (付) 棟札」



所在地 安富町関字下セキ554-1  
水尾神社内  
所有者 関部落区長  
指定年月日 平成2年3月31日

江戸時代中期、17世紀末の造立。

小規模な一間社隅木入り春日造りであるが、履屋に入っていて保存がよく、細部の手法がすぐれている。「播磨鑑」に「三尺四面計社也飛驒匠作ルト云」とあり、当時もすぐれた建築とされていたことが知られる。暦応元年の棟札は創建時の応永20年のものは修理時のものである。

安富町指定文化財 〈彫刻〉

もく ぞう やく し に よ ら い ぎ ぞう  
「木造薬師如来坐像」

所在地 安富町安志536法性寺  
所有者 鶴田玉潤  
指定年月日 平成2年3月31日

座高41cm、頭部<sup>は</sup>にかけ前後に<sup>は</sup>矧いだ寄木造りで右手<sup>ひし</sup>肘より先、左手、薬壺は後補である。

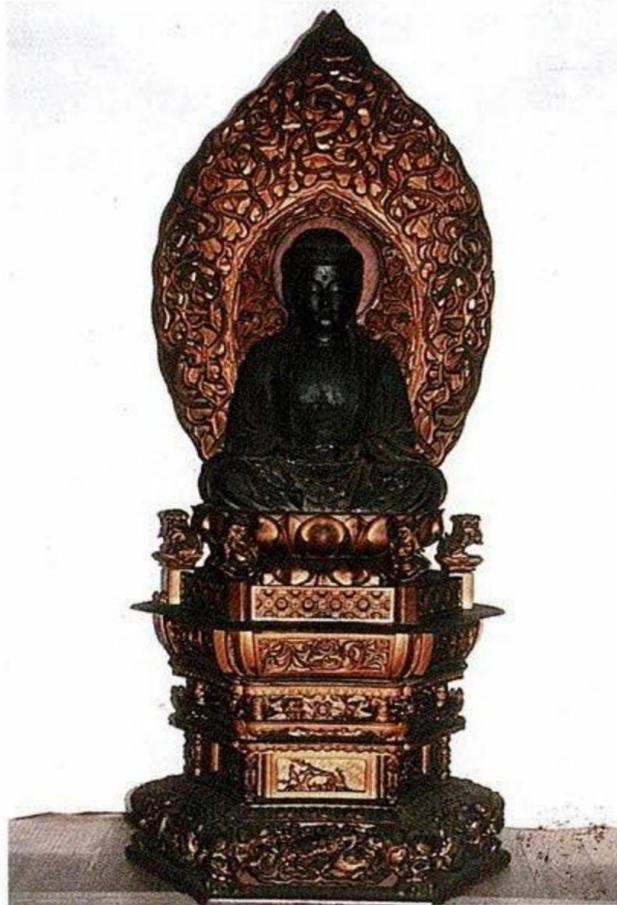
胎内銘によって建武2年<sup>ひち</sup>柴島清賢(法名 阿然)尼定忍夫婦によって造立された尊像であることがわかる。

銘文に見える柴島氏は宇佐八幡宮の社家である。おそらく小笠原氏の中津時代に入手し法性寺に安置していたので安志へ伝来したのであろう。



安富町指定文化財〈彫刻〉

もくぞうしゃかによらいざぞう  
「木造釈迦如来坐像」



所在地 安富町名坂305

旧開善寺

所有者 管理者代表 馬躰佐一

指定年月日 平成3年3月30日

江戸時代の作と思われる。修復しており原形を損じているが、なお室町時代の作風が濃厚に残っている。

旧開善寺本尊

像高48cm 材質 檜

安富町指定文化財〈無形民俗文化財〉

せき まんどう  
「関の万灯」

所在地 安富町関

所有者 関部落区長

指定年月日 平成3年3月30日



万灯は、古くは農山村で広く行われていた重要な年中行事であった。

稲の害虫防除、愛宕神社とか秋葉神社への献火などといわれ、多くは松明を短い竹の先につけて田の畔に立てて焼いたが、戦後次第に廃絶した。

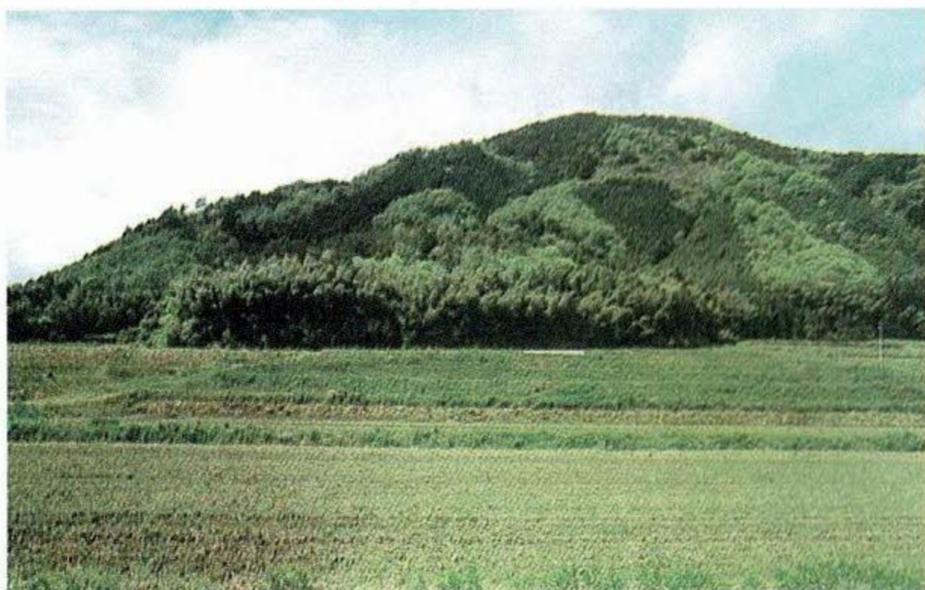
関では、なお絶えることなく、古くから伝統を守って例年7月24日の夜、行われている。

かなり大きな松明を、4～5mの竹の先端に固定し、点火して川岸に並べ立てて燃やすので、夜空を明るく照らし美しい。

戸数が減少したのに伴い、寂しくなったというが、松明が並び燃えさかる夜景は壮観である。

安富町指定文化財〈史 跡〉

しおのおかのうえぐんしゅうふん  
「塩野岡ノ上群集墳」



所在地 安富町塩野字岡ノ上  
所有者 1号墳 塩野生産森林組合  
2号墳 松井策夫  
指定年月日 平成2年3月31日

1号墳は、墓地入口にある。墳形は崩れた横穴式石室が露出している。

石室は4.0m×0.6m、高さ1.0m

2号墳は、墓地上方の山中にある。径10mの六角形墳であり、封土の流出で横穴式石室の天井石や側石が露出している。

石室は4.4m×1.1m

安富町指定文化財〈史 跡〉

いながきしかはか  
「稲垣子華墓」



所在地 安富町名坂字幸念305

所有者 稲垣 武

指定年月日 平成3年3月30日

稲垣子華は、岡山県田殿の人で、少年にして大阪懐徳堂主 中井菴庵に寄寓して学んだ。20才のとき（寛保元年）菴庵推薦で安志藩校教頭に招かれた。宝暦4年、老父が田殿を離れないので、故郷に帰り孝養を尽くした。また、農業に励み、その行いは近隣の村々を感化するまでになった。

これが幕府にも聞こえ、明和元年白金二百両を下賜して褒賞した。そのため孝子浅之丞として知られ、官撰「徳川実紀」にも記されている。中井竹山は、ただちに、「子華孝状」を書き出版した。地元の「美作略史」「美作孝民記」にも載る。

父の歿後、再び安志に帰り藩校で子弟の教育に努めたが、宝暦9年1月6日安志で歿した。

〈墓碑銘〉 正面 瀧 嵩先生之墓  
右 稲垣隆秀  
左 寛政丁巳春正月六日

## 安富町指定文化財〈史 跡〉

### みつもりじょうし 「三森城址」

所在地 安富町三森字城山同字平谷

所有者 志水甚之助 吉田 勇

指定年月日 平成3年3月30日



中世の山城の遺構で、山頂部に数段の段構が残っている。かなり信頼性のあるとされる『赤松家播備作城記』には見えないが、宝暦5年の『播磨古跡考』に「三森古城 安志庄三森に有 三森近江守と云う人 住之と伝」とあるのが所見である。

長水城の東の出城と推定される。東から敵が攻めてきた場合、下河峠を中継点として狼煙によって長水城へ知らせるのが、第一の任務であったと推測される。三森城－下河峠－長水城は一直線上にあって、それぞれ合図の確認距離内にある。

小規模ではあるが、町域唯一の中世の山城の遺構として重要である。

## 安富町指定文化財〈天然記念物〉

### しかがつぼおうけつ 「鹿ヶ壺甌穴」

所在地 安富町関字坪が谷

所有者 松下和彰

指定年月日 平成2年3月31日



甌穴は河床の岩盤のくぼみに入った小石、砂が流水によって回転し、長年の間にかなり大きな穴になったものである。

鹿ヶ壺甌穴は県域で最も大きな甌穴群として地学上価値が高く、昭和のはじめ県の天然記念物に指定された。

しかし、戦後文化財保護法の主旨による文化財保護条例の制定にともない旧条例の県指定は解除されたので、現在は天然記念物ではない。

一方新条例による名勝に指定されているので町の天然記念物指定後県の天然記念物再指定へ運びたい。(名勝天然記念物として再指定)

安富町指定文化財〈天然記念物〉

「ヒメハルゼミ生息地 <sup>みず お じん じゃ しゃ そう</sup> (水尾神社社叢)」



所在地 安富町関字下セキ554-1

所有者 関部落区長

指定年月日 平成2年3月31日

水尾神社社叢は、次の3点から学術的価値が高い。

- ① 生息地の少ない暖地性のヒメハルゼミが多い。現在知られている県域の生息地として最も冷涼で、今後分布調査の一つの指標となる生息地として貴重である。
- ② 昭和52年3月29日県指定天然記念物「水尾神社の大スギ」がある。
- ③ シラカシ、サカキ、カゴノキ、ヤブツバキなどの常緑広葉樹が高木層を形成し、トチノキ、アカシデ、イロハモミジなどの落葉樹を交える保存状態の良いシラカシ林である。

安富町指定文化財〈天然記念物〉

「<sup>や ぐら じん じゃ</sup>矢倉神社の  
ツクバネガシ林」

所在地 安富町皆河字重光858

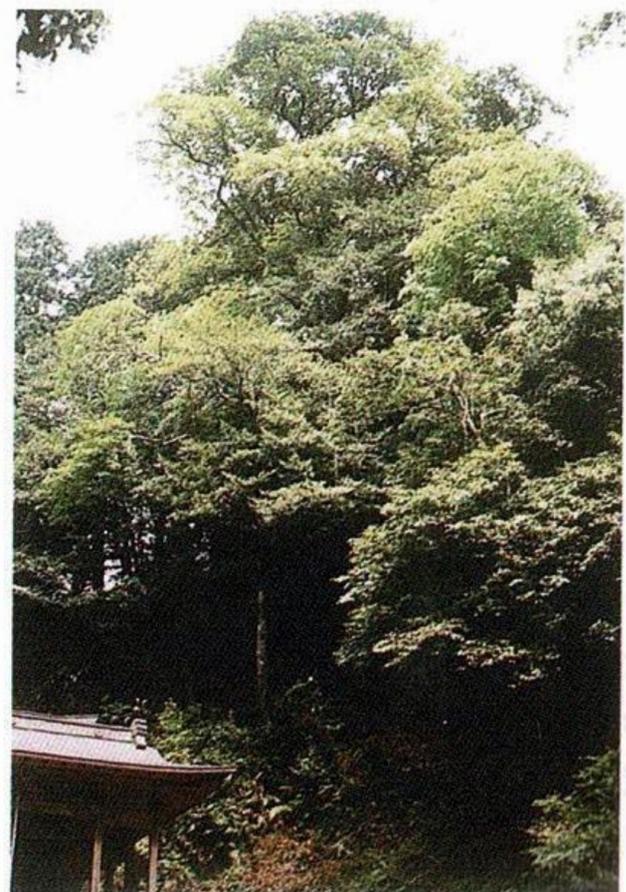
所有者 皆河部落区長

指定年月日 平成2年3月31日

ツクバネガシ、アラカシ、シラカシ、サカキ、ヤブツバキなどの広葉常緑樹を主体としケヤキ、イロハモミジなどを交える照葉樹林である。

特に、林中にツクバネガシの幼木が多く、ツクバネガシが主体の樹林であったことが知られる。

また、ヤマフジの大木も貴重である。



安富町指定文化財〈天然記念物〉

とちはらてんじん  
「**朽原天神のシイ林**」



所在地 安富町朽原字奥山231

所有者 朽原部落区長

指定年月日 平成2年3月31日

西日本（暖温帯）は、古くはシイ、カシ類（アラカシ、アカガシ、ツクバネガシ、シリブカガシ、シラカシ）、サカキ、ヤブツバキ、カゴノキなどの常緑広葉樹に覆われていたが、主として人為的に破壊され、落葉広葉樹林へ遷移し二次林が形成されたと考えられる。その中で、神社の森には常緑広葉樹林が見られ、一次林の残存林で、特にシイ林は植物生態学上、代表的残存林として高く評価されている。

朽原天神の森は、シイ、サカキ、ツクバネガシ、アラカシなどから構成された照葉樹林で、林田川最上流のシイ林でもあり、学術的価値があり、保存の要がある。

安富町指定文化財〈天然記念物〉

せばとおとしじんじゃ  
「**狭戸大歳神社のカヤ林**」

所在地 安富町狭戸字金ヶ谷

所有者 狭戸部落区長

指定年月日 平成2年3月31日

カヤは種子を食べ、材が碁盤などの適材であるので、古来有用植物として知られているが、老木は少ない。

また、カヤは林をつくることがないが、神社の森にはときどきカヤの多い社叢がある。西播磨では宍粟郡一宮町公文の川上神社や他にもカヤの多い社叢はあるが、郡南では山崎町葛根の松尾神社と狭戸大歳神社だけである。

狭戸大歳神社社叢には10数株あり、数少ないカヤ林として植物生態学上貴重である。なお、ケヤキも数少ない巨木として保存したい。



安富町指定文化財〈天然記念物〉

せき  
「関の大カツラ 2株」



所在地 安富町関字カニワ山林  
790-84

所有者 関部落区長

指定年月日 平成2年3月31日

カツラは深い山に自生する落葉高木である。主木が古木になると、根元からひこ生えが叢生する性質があり、県域では、

- ・別宮の大カツラ (養父郡関宮町)
  - ・和池の大カツラ (美方郡村岡町)
  - ・兎和野の大カツラ (美方郡村岡町)
- が県の天然記念物に指定されている。

指定樹は2株が近くにあって、ともに典型的な叢生が見られ、目通り周囲は9mあり、但馬の指定にやや劣るが立地条件がよく、樹勢旺盛であるから、さらに壮大になると思われる。

安富町指定文化財〈天然記念物〉

ぜんしょうじ  
「善照寺の  
ショウフクジザクラ」

所在地 安富町皆河1073

皆河善照寺

所有者 善照寺住職 建部恵潤

指定年月日 平成2年3月31日



美方郡温泉町字湯の正福寺の植栽品により牧野富太郎博士が命名したもので、ヤマザクラとヒガンザクラの雑種とみられている。半しだれで、親木が弱ると叢生する性質がある。他の桜と非常に違っているのは以下である。

- ① 萼片の間に副萼片があること
- ② めしべが1～4本あって、2本のものが最も多く双果を結ぶこと
- ③ 花びらが40～60枚の八重咲きであること

但馬、宍粟、佐用に栽植されているが、その中で最も樹勢が旺盛で、かつ樹形が整っていて、4月中旬頃満開になる。

優美なサクラで学術的にも鑑賞上からも価値が高い。

安富町指定文化財 〈天然記念物〉

しおのおおとしじんじゃしゃそう  
「塩野大歳神社社叢」

所在地 安富町塩野字宮ノ前744

所有者 塩野部落区長

指定年月日 平成3年3月31日



普通に見る社叢のようであるが、植生要素に注意すべきものがみられる。

(1) ヤマフジの巨木は、地上1.5mの幹周1.33mで第一枝を出し、さらに約3m樹木に絡まらず斜上し分枝する。

この幹は、数本の蔓が絡み<sup>から</sup>あったものではなく、単幹とみられる。他樹に絡まないこのような単幹のヤマフジの巨木なものは珍しく、学術的にも貴重である。単独でも指定の価値がある。

(2) 少数ながらカヤの大木がある。地上1.5mの幹囲2.32mを最大に、大木が6本ある。巨木はないがスギの多い社叢である。しかし、近隣地に狭戸大歳神社のカヤ林が残存することからみて、当社叢も元はカヤ林であったと考えられる。したがって、社叢全体が貴重な残存植生で保存が望まれる。



一 宮 町

## 指定文化財一覧（一宮町）

番号	指定	種別	名称	所在地	頁
1	国	建造	御形神社本殿(附棟札4枚)	一宮町森添208	32
2	県	彫刻	正福寺木造大日如来座像	一宮町河原田1254	33
3	県	有民	河原田農村芝居堂	一宮町河原田828	34
4	県	史跡	一つ山古墳	一宮町安黒33	35
5	県	天然	庭田神社のケヤキの大木	一宮町能倉1286	36
6	県	天然	安積のカヤの古木	一宮町安積488	37
7	県	天然	池王神社のアカガシ林	一宮町深河谷789	38
8	町	建造	三方町宝篋印塔	一宮町三方町160-6	39
9	町	建造	河原田宝篋印塔	一宮町河原田872	39
10	町	建造	上岸田宝篋印塔	一宮町上岸田131-2	40
11	町	建造	黒原五輪塔	一宮町黒原517	40
12	町	彫刻	西林寺木造虚空蔵菩薩座像	一宮町下野田10	41
13	町	彫刻	中坪木造聖観音菩薩立像	一宮町東河内1235	41
14	町	彫刻	本谷木造薬師如来立像	一宮町東河内2947	42
15	町	彫刻	仏心寺木造聖観音菩薩立像	一宮町上岸田259	42
16	町	彫刻	満福寺木造薬師如来座像	一宮町百千家満128	43
17	町	美工	播磨国一宮伊和神社神振用東市場屋台祭幕	一宮町東市場	43
18	町	有民	鶴図絵馬	一宮町須行名407	44
19	町	有民	熊谷直実と平敦盛図絵馬	一宮町須行名407	44
20	町	有民	百人一首図絵馬	一宮町森添208	45
21	町	有民	左義長羽子板	一宮町森添208	45
22	町	有民	巴御前勇戦図	一宮町森添208	46
23	町	無民	横山チャンチャコ踊り	一宮町横山	46
24	町	史跡	伊和中山古墳群(1~12号墳)	一宮町伊和860-18外	47
25	町	史跡	家原遺跡	一宮町三方町字家原	47
26	町	天然	大歳神社参道のキツタ	一宮町生栖805-1	48
27	町	天然	日野神社社叢	一宮町上岸田1	48
28	町	天然	安積八幡神社の大スギ	一宮町安積864	49
29	町	天然	倉床カタクリ群生地	一宮町倉床23-3	49
30	町	天然	横山カタクリ群生地	一宮町横山375-7	50

国指定重要文化財  
〈建造物〉

所在地 一宮町森添208

所有者 御形神社

指定年月日 昭和42年6月15日

みかた つけたりむなふだ  
「御形神社本殿(附 棟札4枚)」



ご祭神は、葦原志許男神あしはらのし こおのかみである。高峰山（播磨風土記では黒土の志尔嵩しにだけ）より、宝亀3年（772）に現在地に遷したと伝えられている。平安朝の延喜式にも所載され、現存する本殿は3度目の火災による焼失の後、大永7年（1527）に再建されたものである。社殿は三間社流れ造りの桧皮葺きで、身舎の桁行き5.25m・梁間3.34mを測る。室町時代末期の建築様式や技法を伝える貴重な建物といえる。特に軒支輪のきしりんの工法を用いた建造物としては、極めて初期のものである。優れた宮大工によってこの技法が試された形跡があることや、彫刻には梶の葉（紙の原料木・カジノキ）が筆を巻いたものなどがあり、題材をこの地から求めたことも察せられる。ご遷座1200年に当たる昭和47年に解体修理が完成し、柱部には丹塗り、組物には極彩色が施され、建立当初の華やかな姿に復元されたものである。

兵庫県指定文化財

〈彫刻〉

しょうふくじもくぞうだいにちによらい

「正福寺木造大日如来座像」

所在地 一宮町河原田1254

所有者 河原田部落

指定年月日 昭和49年3月22日



真言宗正福寺の本尊で、行基作と伝えられる秘仏である。内<sup>く</sup>削りを施す<sup>よせ</sup>松材<sup>ぎつく</sup>の寄木造りで身には<sup>しつぱく</sup>塗箔<sup>を</sup>押し<sup>ちやうがん</sup>眼は彫<sup>びやくごう</sup>眼<sup>で</sup>、白毫<sup>かんにゆう</sup>には水晶<sup>を</sup>嵌<sup>ちけんいん</sup>入している。智拳印<sup>を</sup>結ぶ<sup>いわ</sup>ゆる<sup>こんごうかい</sup>金剛界大日如来像<sup>で</sup>、肉<sup>えもん</sup>取りや衣文<sup>に</sup>やや硬化したところがみられるものの、12世紀末頃の製作になるものと思われる。

兵庫県指定文化財  
〈有形民俗〉

かわはらだのうそんしばいどう  
「河原田農村芝居堂」

所在地 一宮町河原田828

所有者 河原田部落

指定年月日 昭和44年3月25日



八幡神社境内にあり、明治36年（1903）の完工に成り、入母屋造り茅葺き（現在は鉄板で被覆）で、間口8間・奥行5間・床高3尺を測る。上手に太夫座、下手に高座を置き廻り舞台・二重上段両引き分け上段押し出し・反し壁など、農村の芝居堂としては優れた舞台装置を整えている。

兵庫県指定文化財

〈史 跡〉

ひとつやま  
「**一つ山古墳**」

所在地 一宮町安黒33

所有者 伊和神社

指定年月日 昭和46年4月1日



播磨国の一宮伊和神社の西南約400mの位置にある円墳で、規模は現存で長径約22m・短径約18m・高さ3mを測っている。墳丘の表面には葺石が見られるが、埋葬施設については明らかではない。築造時期は古墳時代中期末（5世紀後半頃）と考えられている。

兵庫県指定文化財  
〈天然記念物〉

にわた じんじゃ

## 「庭田神社のケヤキの大木」

所在地 一宮町能倉1286

所有者 庭田神社

指定年月日 昭和56年11月3日



延喜式内社庭田神社の社叢しゃそうにそびえる、樹高約30m・根回り7.85m・幹囲5.35m（地上1.50）、枝張り東西36.7m、南北30.2mを測る大樹である。

地上8mでの分枝をはじめ、主幹も枝状になっている。樹幹に損傷は見られず、きわめて旺盛な樹勢を誇っている。（推定樹齢600年）

兵庫県指定文化財  
〈天然記念物〉

所在地 一宮町安積488  
所有者 曲里部落  
指定年月日 昭和60年3月26日

あずみ  
「安積のカヤの古木」



本樹は、安積橋の北詰にある故小畑虎之助氏の顕彰碑の傍らにそびえている。  
樹高約23m・根回り7.50m・幹囲5.50m（地上1.50m）枝張りの東西12m・南北10.1mの雄株である。樹幹のわりには樹高が低く、幹には空洞が見られ、樹勢にもやや衰えが目立つようである。（推定樹齢600年）

兵庫県指定文化財  
〈天然記念物〉

所在地 一宮町深河谷789

所有者 池王神社

指定年月日 県指定 昭和49年3月22日

町指定 昭和56年11月3日

いけおうじんじゃ  
「池王神社のアカガシ林」

同 アカガシ (町指定)



アカガシは暖帯照葉樹林を構成する要素の一つで、東アジアの暖帯に広く分布している。中心となる樹は、樹高約20m・根回り9.40m・幹囲5.45m（地上1.50m）枝張り東西24.4m・南北32.2mを測る巨木である。樹幹には空洞が認められるが、樹勢はなお旺盛といえる。（推定樹齢600年。）アカガシ林の面積は約2,425㎡である。

一宮町指定文化財 〈建造物—石造〉

みかたまちほうきょういんとう  
「三方町宝篋印塔」



所在地 一宮町三方町160-6

所有者 進藤七三

指定年月日 昭和57年11月15日

凝灰岩製で、相輪の上半部を欠失し、高さ110cmを測る。塔身は4面とも素面で、基礎の上面には複弁の反花座を刻み、4面とも輪郭を取っているが、その内1面にのみ素面の格狭間を入れている。銘はないが室町時代の初期に造立されたものと思われる。

一宮町指定文化財 〈建造物—石造〉

かわはらだほうきょういんとう  
「河原田宝篋印塔」

所在地 一宮町河原田872

所有者 和田 孝

指定年月日 昭和57年11月15日

高さ95.5cmの花崗岩製で、相輪に2箇所がちりんの折れがある他は、各部とも完存している。塔身は4面とも月輪を刻み、その中に種子しゅじを入れ、基礎の上部には複弁の反花座かえりはなざを刻んで、4面とも輪郭の中に素面の格狭間すめん こうざまを入れている。室町時代初期の造立に成るものと思われる。



一宮町指定文化財〈建造物—石造〉

かみきしだほうきょういんとう  
「上岸田宝篋印塔」



所在地 一宮町上岸田131-2

所有者 藤原幸治

指定年月日 昭和57年11月15日

花崗岩製で、高さ85cmと小振りであるが、均整の取れた優品といえる。塔身の4面には、異なった持物を持つ地藏菩薩立像を陽刻している。基礎には複弁の反花座かえりはなざを刻み、3面にのみ素面すめんの格狭間こうざまを入れている。室町時代初期の造立と見られるが、塔真に仏像を陽刻する例は珍しいものである。

一宮町指定文化財〈建造物—石造〉

くろはらごりんとう  
「黒原五輪塔」

所在地 一宮町黒原517

所有者 藤原実夫

指定年月日 昭和57年11月15日



2基ともに花崗岩製で、全体に遺存状態が良く、高さ85cm（右）・82cm（左）を測る。左側の火輪かりんの軒は真反りに近く、右側のものは直線を成している。両塔ともに、四方しほうの種子ごだいが刻まれている。銘は認められないが、室町時代前半の造立に成るものと思われる。

一宮町指定文化財〈彫刻〉

さいりんじもくぞうこくぞうぼさつ  
「西林寺木造虚空蔵菩薩座像」



所在地 一宮町下野田10

所有者 西林寺

指定年月日 昭和59年12月3日

「十三まいり」で有名な、岩陰のお堂の本尊として祀られている。像高は現状で115cmを測り、寄木造りで眼は彫眼とし、身には塗箔を押している。製作年代は平安時代の末期と考えられるが、両手・宝珠・腰部より下は、後世の修理によって造立当初の面影が失われている。

一宮町指定文化財〈彫刻〉

なかつぼもくぞうせいかなのんぼさつ  
「中坪木造聖観音菩薩立像」

所在地 一宮町東河内1235

所有者 中坪部落

指定年月日 昭和59年12月3日

像高112cmの寄木造りで内割りを行ない、身には塗箔を押し衣には彩色が施されている。両腕・両足・天衣・宝冠・瓔珞などは、後世の補修による。体軀や衣紋などには、平安時代末期の様式を残しているが、鎌倉時代に入っでの製作と見る方が穏当かと考えられる。



一宮町指定文化財〈彫刻〉

ほんだにもくぞうやくしによらい  
「本谷木造薬師如来立像」



所在地 一宮町東河内2947

所有者 本谷部落

指定年月日 昭和59年12月3日

よせぎつく 寄木造りで、右手は施無畏印を執り、  
左手には薬壺を持っている。身には塗  
箔を押し眼は彫眼で、肉髻珠・白毫  
には水晶を嵌めこんでいる。相貌・衣  
文などには復古調を帯び全体の姿勢・  
様式などにはやや堅さが見られる。室  
町時代初期の製作と思われるが、両手  
足・薬壺・台座・光背などは後補のも  
のである。

一宮町指定文化財〈彫刻〉

ぶっしんじ  
「仏心寺木造聖観音菩薩立像」

所在地 一宮町上岸田259

所有者 仏心寺

指定年月日 昭和59年12月3日

全体では一本造りであるが、両肩よ  
り先・天衣・化仏・宝冠・瓔珞などは、  
後補による。体軀をわずかに左にひねっ  
ており、眼は彫眼としている。相貌  
や体軀にはかなり磨耗が見られるもの  
の、衣文の造りは優美であり、平安時  
代末期の製作に成るものと考えられる。  
像高70.5cmを測る。



一宮町指定文化財〈彫刻〉

まんぷくじ  
「満福寺木造薬師如来座像」

所在地 一宮町百千家満128

所有者 満福時

指定年月日 昭和59年12月3日



内<sup>く</sup>削りを施<sup>よせ</sup>す寄木造<sup>ぎつく</sup>りで、身<sup>し</sup>には塗<sup>しつ</sup>箔<sup>はく</sup>が押<sup>お</sup>され、螺<sup>ら</sup>髪<sup>はつ</sup>を彫<sup>ひ</sup>出し、肉<sup>にく</sup>髻<sup>けい</sup>珠<sup>しゆ</sup>・白<sup>びやく</sup>毫<sup>ごう</sup>には水<sup>すい</sup>晶<sup>しやう</sup>が嵌<sup>かん</sup>入<sup>にゅう</sup>されている。両手首より先・薬<sup>きん</sup>壺<sup>てい</sup>・金<sup>きん</sup>泥<sup>でい</sup>などは後<sup>きん</sup>補<sup>てい</sup>と見られるが、優<sup>そ</sup>美<sup>う</sup>な相<sup>さう</sup>貌<sup>ぼう</sup>や整<sup>せい</sup>ったお<sup>お</sup>だや<sup>だ</sup>か<sup>か</sup>な体<sup>たい</sup>軀<sup>く</sup>、や<sup>や</sup>わ<sup>わ</sup>ら<sup>ら</sup>か<sup>か</sup>く流<sup>りゅう</sup>麗<sup>れい</sup>な衣<sup>え</sup>文<sup>もん</sup>などは藤<sup>とう</sup>原<sup>げん</sup>様<sup>やう</sup>式<sup>しき</sup>を示<sup>し</sup>し、平<sup>へい</sup>安<sup>あん</sup>時<sup>じ</sup>代<sup>だい</sup>後<sup>ご</sup>期<sup>き</sup>の優<sup>え</sup>品<sup>ひん</sup>といえる。像<sup>ざう</sup>高<sup>こう</sup>104cmを測<sup>はか</sup>る。

一宮町指定文化財〈工芸品〉

はりまのくにいちのみやい わじんじゃ  
「播磨国一宮伊和神社

かみふりよう まつりまく  
神振用東市場屋台祭幕」

所在地 一宮町東市場

所有者 東市場

指定年月日 昭和62年5月1日



東市場部落に伝わる本祭幕は、明治時代初期の製作にかかるものと見られ、「須佐之<sup>やまたのおろち</sup>男<sup>おとこ</sup>命<sup>のみこと</sup>八<sup>やち</sup>岐<sup>ぎ</sup>蛇<sup>へび</sup>退<sup>たい</sup>治<sup>ち</sup>」を絵柄とし金<sup>きん</sup>繡<sup>しゅう</sup>部分<sup>ぶぶん</sup>は横<sup>よこ</sup>4.6m・縦<sup>たて</sup>0.7mを測<sup>はか</sup>る。原<sup>げん</sup>材<sup>ざい</sup>料<sup>りょう</sup>には最<sup>さい</sup>高<sup>こう</sup>級<sup>きゅう</sup>の絹<sup>きぬ</sup>糸<sup>いと</sup>や本<sup>ほん</sup>金<sup>きん</sup>糸<sup>いと</sup>を使用<sup>し</sup>し、き<sup>き</sup>わ<sup>わ</sup>め<sup>め</sup>て高<sup>たか</sup>度<sup>ど</sup>な金<sup>きん</sup>繡<sup>しゅう</sup>の技<sup>ぎ</sup>術<sup>じゆつ</sup>を結<sup>むす</sup>集<sup>じ</sup>した屈<sup>くつ</sup>指<sup>しゆ</sup>の<sup>めい</sup>品<sup>ひん</sup>といえる。

一宮町指定文化財〈有形民俗〉

つる ず え ま  
「鶴図絵馬」



所在地 一宮町須行名407

所有者 伊和神社

指定年月日 昭和62年3月30日

伊和神社の拝殿正面に掲げられた、縦98.0cm・横42.3cmの家屋形の絵馬である。絵は北光斎義忠の筆になり、伊和神社の由緒にふさわしく、松竹が配され、松枝の下に二羽の鶴がたたずむ秀逸な作品といえる。

裏面には、万延元年（1860）の墨書銘が残されている。

一宮町指定文化財〈有形民俗〉

くまがいなおさね たいらのあつもりず  
「熊谷直実と平 敦盛図絵馬」

所在地 一宮町須行名407

所有者 伊和神社

指定年月日 昭和62年3月30日



鶴図と同様に、伊和神社の拝殿に掲げられた、横204cm・縦147.5cmの絵馬で、嘉永7年（1854）、北垣公文の筆になる。画題は播磨地方ではよく取り上げられているが、本絵馬は極彩色で生き生きと描かれた代表的な作品といえる。保存状態はきわめて良好で、濃彩の顔料が美しく残されている。

一宮町指定文化財 〈有形民俗〉

## 「百人一首図絵馬

つけたりゆいしよそえがき

(附 由緒添書 2面)」

所在地 一宮町森添208

所有者 御形神社

指定年月日 昭和62年3月30日



本絵馬は御形神社境内の舞台に、合計17面が掲げられている。百人の歌仙全部が描かれた絵馬は類例が少なく全国でも、2例しか確認されていない、兵庫県では唯一のもので、保存状態も良好できわめて貴重な遺品といえる。他に由緒書2面が添えられており、弘化3年(1846年)に奉納されたことがわかる。(参考他の1面は奈良県天理市牟佐坐<sup>むさいます</sup>神社にある。)

一宮町指定文化財 〈有形民俗〉

## さぎちょうはごいた 「左義長羽子板」

所在地 一宮町森添208

所有者 御形神社

指定年月日 昭和62年3月30日

御形神社に奉納されている絵馬で、長さ54.5cm・幅17.5cmの江戸時代中期頃のものと思われる左義長(正月15日におこなわれるとんど)の様子が裏表に描かれた華麗な羽子板である。羽子板を収めた箱の表書きには、「正徳三癸巳稔季穉良辰河原田邑金沢吉三郎欽言」とある。



一宮町指定文化財〈有形民俗〉

ともえご ぜんゆうせん ず  
「巴御前勇戦図」



所在地 一宮町森添208  
所有者 御形神社  
指定年月日 昭和62年3月30日

御形神社に奉納されている絵馬で、横204.5cm・縦147.5cmを測り、嘉永7年（1854）墨書銘が記されている。

打出浜での最後の戦いで奮戦する巴御前の勇姿が描かれており、保存状態はきわめて良好で、140年以上経過したとは思えないほど、美しい画面を残している。

一宮町指定文化財〈無形民俗〉

よこやま  
「横山チャンチャコ踊り」

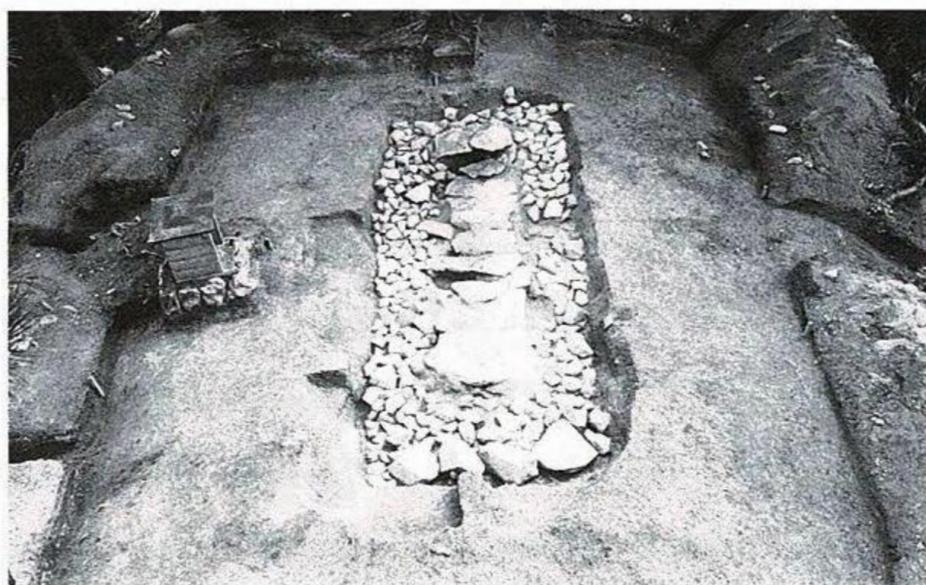
所在地 一宮町横山  
所有者 横山部落  
指定年月日 平成3年6月14日



別名神子踊りともいわれ、例年9月17日の横山神社の秋季祭礼日に奉納されている。踊りは総勢10名の装束を着けた児童から成り太鼓を打ち鉦<sup>かね</sup>を叩いて踊る。歌の歌詞は室町小唄を源流とするといわれるなど、中世的要素を色濃く残す貴重な伝統芸能といえる。

一宮町指定文化財〈史 跡〉

い わ なかやま  
「伊和中山古墳群（1～12号墳）」



所在地 一宮町伊和860-18外

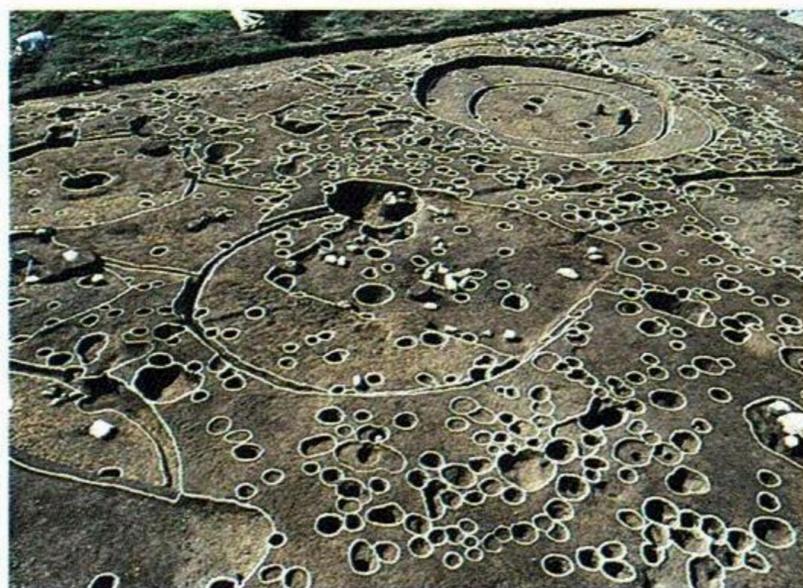
所有者 一宮町

指定年月日 昭和56年11月3日

播磨国一宮伊和神社を北西に望む、丘陵上に位置している。1号墳は前方後円墳で、<sup>ぜんほうこうえんふん</sup>全長62m、後円部の長径38m・高さ6.5mを測り、前方部に<sup>ふきいし</sup>葺石を施している。後円部の中央には、全長5.45m・幅1.2m・高さ0.8mの<sup>たてあなしせきしつ</sup>竪穴式石室が<sup>ほうせいほうかく</sup>営まれ、<sup>かんとうたち</sup>彷彿方格T字鏡1面をはじめ、多くの玉類や環頭太刀1口・鉄剣3口などが出土している。これらの遺物から1号墳の築造年代は、4世紀末頃と考えられる。

一宮町指定文化財〈史 跡〉

え ば ら  
「家原遺跡」



所在地 一宮町三方町字家原

所有者 一宮町

指定年月日 平成5年10月25日

三方町を一望におさめる段丘上に営まれた複合遺跡である。これまでの発掘調査で、<sup>じょうもん</sup>縄文時代の落とし穴遺構や石囲い<sup>ろ</sup>炉を持つ<sup>たてあな</sup>竪穴住居跡、弥生時代の竪穴住居跡23以上、古墳時代の竪穴住居跡78棟以上、奈良時代の<sup>はいきどころ</sup>廃棄土抗、中世の堀立柱建物群や木棺墓<sup>もっかんぼ</sup>など多くの遺構が確認されている。とくに各時代の建物跡の存在は、この地域のみならず広く播磨地方における、古代の住居形態の変遷を跡づける上で、きわめて貴重な成果であると言える。（遺跡の面積約26,993㎡）

一宮町指定文化財〈天然記念物〉

おおとしじんじゃ  
「大歳神社参道のキツタ」

所在地 一宮町生栖805-1

所有者 <sup>いぎす</sup>生栖部落

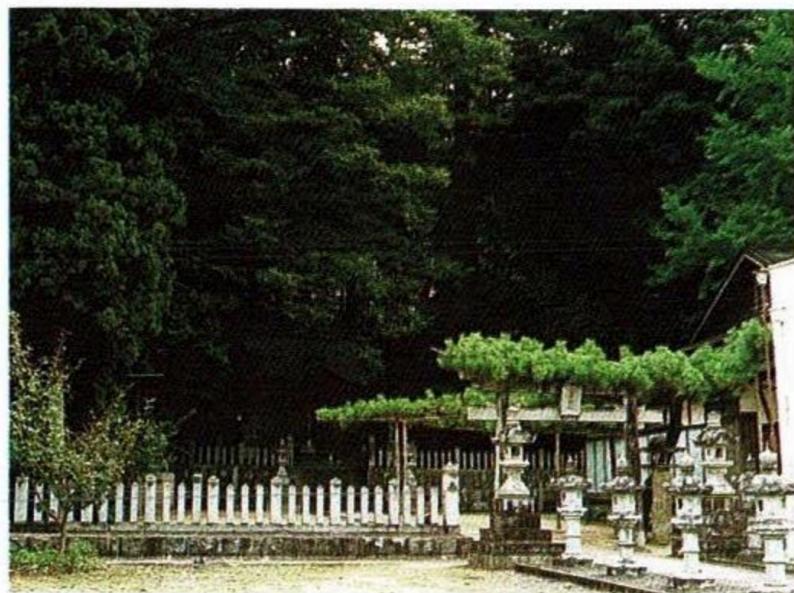
指定年月日 昭和56年11月3日

参道脇のクロマツに取りつき、幹囲は約60cm、上方へ17mほど伸びている。地上20cmのところでは2本に分岐し、さらに1.5m付近からは多数の枝を出して、クロマツの幹を覆っており、樹勢はなお盛んである。キツタは西日本では普遍的に見られるが、このように巨大なものはきわめて珍しいといえる。



一宮町指定文化財〈天然記念物〉

ひのじんじゃしゃそう  
「日野神社社叢」



所在地 一宮町上岸田1

所有者 日野神社

指定年月日 昭和56年11月3日

本社叢は高木層をカヤが占め、亜高木層には少ないながらもヤブツバキ・ウラジロガシが見られることから、潜在植生としてはカヤ・ウラジロガシ林に相当すると見られる。特徴としては、カヤの高木が多いこと、樹高30m・目通り幹囲1.47mを測るキハダの大木が存在することなどである。なお、社叢面積は2,383㎡ほどである。

一宮町指定文化財〈天然記念物〉

あずみ  
「安積八幡神社の大スギ」

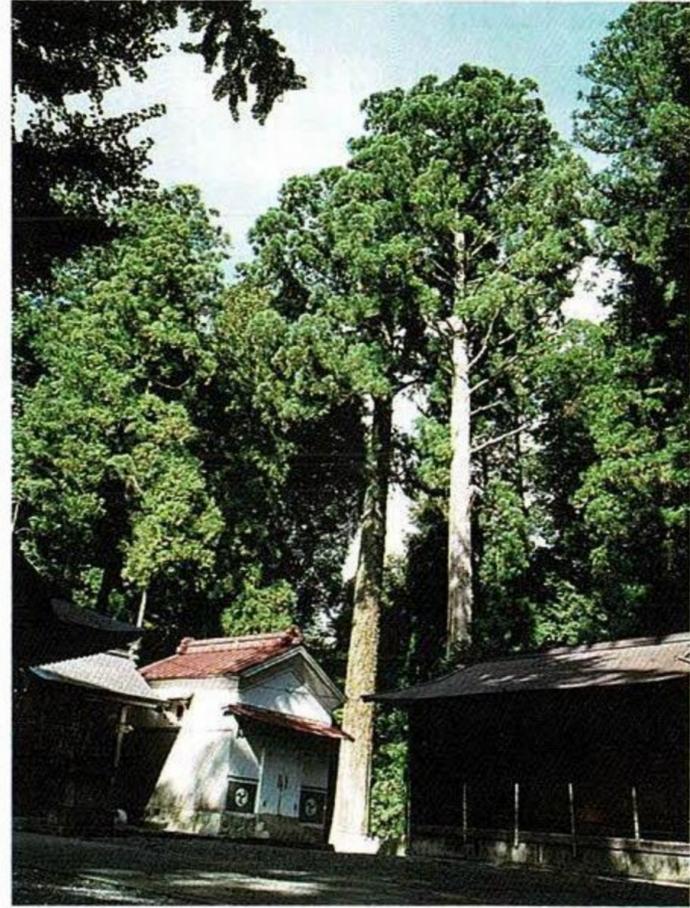
所在地 一宮町安積864

所有者 八幡神社

指定年月日 昭和56年11月3日

安積八幡神社の脇に並んでそびえ北の木は樹高約40m・根回り6.65m・幹回り5.64m（地上1.50m）、南の木は樹高約40m・根回り5.60m・幹囲4.50m（地上1.50m）を測る。両樹ともに地上20m付近までは枝もなく、真っすぐに伸びている。（推定樹齢600年）

現在のところ、町内では最も優れたスギの巨樹ということが出来る。



一宮町指定文化財〈天然記念物〉

くらとこ  
「倉床カタクリ群生地」

所在地 一宮町倉床23-3

所有者 田中豊彦

指定年月日 平成6年3月1日



カタクリは、カタコ（古名カタカゴ）とも呼ばれ、山野に群生するユリ科の多年草である。春に、高さ15cmほどの茎の先に、直径4～5cmの淡紫色の花を一輪下向きに咲かせる。町内での群生地は3箇所ほどが知られているが、本場所の群生地の面積は約300㎡ほどあり、固体数約400株が花を咲かせる。

なお、この場所には3月中旬にはセツブンソウの開花も見られる。

一宮町指定文化財〈天然記念物〉

よこやま  
「横山カタクリ群生地」



所在地 一宮町横山375-7

所有者 田中正夫

指定年月日 平成6年3月1日

カタクリはカタコ（古名カタカゴ）とも呼ばれ、山野に群生するユリ科の多年草である。春になると高さ15cmほどの茎の先に、直径4～5cmの淡紫色の花を一輪下向きに咲かせる。町内での群生地は3箇所ほどが知られているが、特に横山のものはその面積約600㎡ほどあり、県下でも有数の面積と固体数を誇っている。

一宮町指定文化財〈天然記念物〉

よこやま  
「横山カタクリ群生地」



所在地 一宮町横山375-7

所有者 田中正夫

指定年月日 平成6年3月1日

カタクリはカタコ（古名カタカゴ）とも呼ばれ、山野に群生するユリ科の多年草である。春になると高さ15cmほどの茎の先に、直径4～5cmの淡紫色の花を一輪下向きに咲かせる。町内での群生地は3箇所ほどが知られているが、特に横山のものはその面積約600㎡ほどあり、県下でも有数の面積と固体数を誇っている。



波 賀 町

## 指定文化財一覧（波賀町）

番号	指定	種別	名称	所在地	頁
1	県	天然	日見谷火魂神社の大ムクノキ	波賀町日見谷283	51
2	県	天然	小野の大トチノキ	波賀町小野121	52
3	町	建造	齋木名古城宝篋印塔	波賀町齋木60-32	53
4	町	建造	齋木中村宝篋印塔	波賀町齋木1654	53
5	町	建造	飯見宝篋印塔	波賀町飯見36-18	54
6	町	建造	原宝篋印塔	波賀町原422	54
7	町	彫刻	満願寺木造大日如来坐像	波賀町安賀107	55
8	町	彫刻	安養寺木造阿弥陀如来及び両脇侍像	波賀町齋木588	55
9	町	彫刻	長源寺木造如意輪観音坐像	波賀町引原328-32	56
10	町	美工	太、刀	波賀町安賀435-1	56
11	町	無民	チャンチャコ踊り	波賀町安賀435-1	57
12	町	無民	チャンチャコ踊り	波賀町原665	57
13	町	無民	水谷明神社の獅子舞	波賀町上野1295	58
14	町	史跡	上野波賀城蹟	波賀町上野2-51	58
15	町	史跡	宮路古墳	波賀町有賀字宮路	59
16	町	天然	上野宝殿神社社叢	波賀町上野271	59
17	町	天然	小野諏訪神社の大スギ	波賀町小野223	60
18	町	天然	原八幡神社の夫婦スギ	波賀町原665	60

兵庫県指定文化財  
〈天然記念物〉

所在地 波賀町日見谷283番地  
所有者 日見谷部落  
指定年月日 昭和62年3月22日

ひみたにかこん  
「日見谷火魂神社の大ムクノキ」



主幹基部は空洞化するが、樹勢は旺盛である。目通り幹囲6.85 m、樹高 20 m、枝張りは東へ 18.7 m、西へ 8 m、南へ 17.5 m、北へ 9.2 m を測る。幹の太さでは県指定天然記念物〈矢野のムクノキ〉（相生市矢野町）、〈植木野のムクノキ〉（宍粟郡安富町）に勝る稀有のムクノキの巨木で学術的価値が高い。推定樹齢 700 年。

兵庫県指定文化財  
〈天然記念物〉

所在地 波賀町小野121林班

所有者 小野部落

指定年月日 昭和61年8月28日

## 「小野の大トチノキ」



約20mの間隔で2株のトチノキの巨木が並び、果実を拾うために樹下の雑木は伐り払ってある。大きい株は樹高約23m、目通り幹囲6.7m、基幹は高さ2.5mで2幹に分れる。枝張りは東へ18m、西へ20m、南へ19m、北へ9mを測る。小さい株は樹高約20m、目通り4.4m、枝張りは東へ10m、西へ19m、南へ8m、北へ15mを測る。推定樹齢500～600年。トチノキの巨木として学術的価値が高いのみでなく、住民の生活と深く結びついて保存されてきたことは民俗学的資料としての価値も高い。ともにビロウドシダ、オシャグジデンダ、サジランの着生が顕著である。

波賀町指定文化財 〈建造物－石造〉

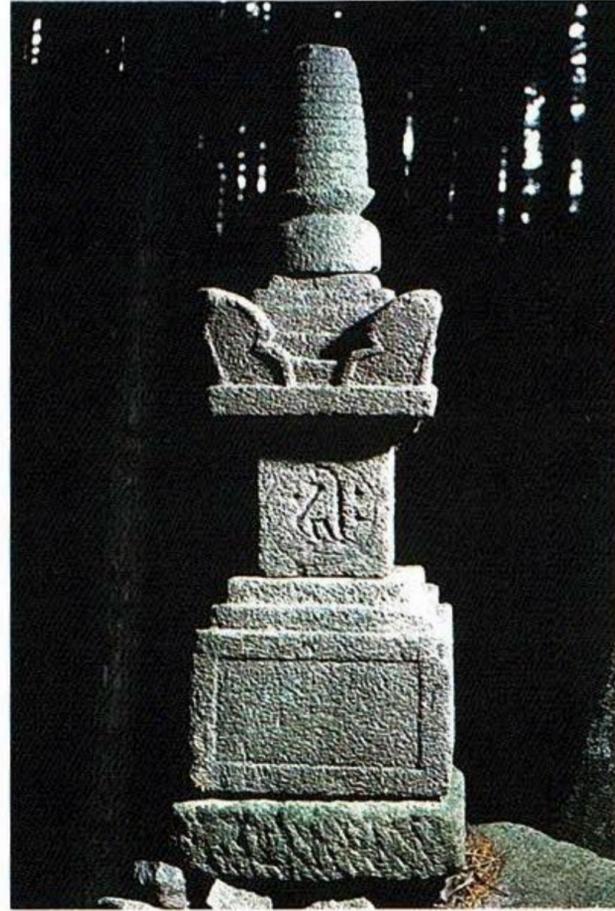
さいきなごきほうきょういんとう  
「齋木名古城宝篋印塔」

所在地 波賀町齋木60番地の32

所有者 安養寺 井上睦照

指定年月日 昭和61年 8月28日

流紋岩質凝灰岩製。相輪上部の宝珠と請花を欠損しているが、九輪以下は完存し、複弁反花座つきの基壇（高さ9.5cm）までそろっている。残存九輪から基礎までの現高95cm。笠部の段形は5段式で、塔身には月輪を刻み金剛四仏の種子を彫っている。基礎は3面に輪郭を切り、1面だけ素面とする。各面とも格狭間はない。無銘だが様式や手法からみて、室町時代の前期の造立と思われる。



波賀町指定文化財 〈建造物－石造〉

「齋木中村宝篋印塔」

所在地 波賀町齋木1654番地

所有者 田住 剛

指定年月日 昭和61年 8月28日

流紋岩質凝灰岩製。3基併立しているが、向かって左側の塔で、相輪の九輪以下を残して上部を欠損している。笠部の段形は5段式。塔身は月輪内に金剛界四仏の種子を刻む。上部に反花座つきの基礎は、3面が輪郭を切り裏の1面は素面。内に格狭間はない。現高95cmで無銘だが様式や手法からみて室町時代前期の造立と思われる。



波賀町指定文化財 〈建造物－石造〉

いいみ  
「飯見宝篋印塔」

所在地 波賀町飯見36番地の18

所有者 岡田義仁

指定年月日 昭和61年 8月28日

流紋岩質凝灰岩製。ほぼ完存しており、  
基壇（高さ9cm）を除く総高102.5cm。相  
輪は上部請花下で折損し、下部請花は若干  
外反している。月輪内に金剛界四仏の種子  
を刻むが、種子の書体はすでに崩れかけて  
いる。2段の段形つきの基礎は4面とも輪  
郭で巻くが、内に格狭間はない。反花座  
つき基壇は隅花だけは立派だが、中央部  
の複弁が陽刻でなく線刻で代用していて、  
時代が降ったことを示している。但し、完  
存している点が貴重で、室町時代中期前半  
の造立と思われる。



波賀町指定文化財 〈建造物－石造〉

「原宝篋印塔」

所在地 波賀町原422番地

所有者 中川タケノ

指定年月日 昭和61年 8月28日

流紋岩質凝灰岩製。方形の石組み壇  
上に建つ。相輪は3ヶ所折損し、下部  
の請花が欠損している。笠部の段形は  
5段式。塔身は月輪内に金剛界四仏の  
種子を刻む。2段の段形つき基礎は、  
3面が輪郭を切り1面が素面で格狭間  
はない。2重の基壇があり、上壇は複  
弁様の反花座つき（高さ18.5cm）だが  
反花はだいぶ簡略化されている。現高  
は基壇を除き110cm、鹿伏国道下の宝篋  
印塔（室町時代前期後半）と同一石工  
の作で室町時代前期の造立と思われる。



波賀町指定文化財 〈美術工芸品－彫刻〉

だいにちによらいざぞう  
「満願寺木造大日如来坐像」

所在地 波賀町安賀107番地

所有者 満願寺 稲田義典

指定年月日 昭和61年 8月28日



満願寺の本尊。像高35.6cm、玉眼、漆箔（ほとんど剥落）の像である。寄木造りで、体部は前後の2材からなり、膝の部分と両肩先を矧ぎ合わせる。宝冠と胸前の瓔珞は当初のものと思われるが、光背・台座は後補である。なお、体部と台座は接着されており、像底は確認することができない。智拳印の印相を結ぶ金剛界の大日如来である。表情は理智的で、膝の衣文もなかなかうまく表わされている。制作年代は、作風から見て南北朝～室町時代と思われる。頭長15cm、面長6.3cm、面幅6.2cm、耳張7.6cm、肩幅13cm、臂張19cm、膝張26.6cm。

波賀町指定文化財 〈美術工芸品－彫刻〉

「安養寺木造阿弥陀如来  
及び両脇侍像」

所在地 波賀町齋木588番地

所有者 安養寺 井上睦照

指定年月日 昭和61年 8月28日

安養寺の本尊。中尊は像高77.3cm、寄木造り、玉眼、素地の像で、現状では古色を示している。立像で来迎印の印相を結ぶ。この形式の阿弥陀如来は「安阿弥陀様（あんなみよう）」と呼ばれる。制作年代は作風から見て室町時代と思われる。脇侍は向かって右が両手で蓮台を捧げる観音、左が合掌する勢至菩薩で、寄木造り、漆箔の像である。制作年代は江戸時代と思われる。なお、中尊の光背、台座は、脇侍像の造立時に造られた後補のものである。



波賀町指定文化財 〈美術工芸品—彫刻〉

「長源寺木造如意輪観音坐像」所在地 波賀町引原328番地の32

所有者 長源寺 加納宏教

指定年月日 昭和61年 8月28日



長源寺の本尊。像高43cm、寄木造り、玉眼、金泥塗り。宝冠、瓔珞は銅製鍍金の透し彫り。六臂通例の如意輪観音である。左第二臂の宝輪と左足先を亡失するが、光背、台座とも当初のものが完全に伝えられており、保存状態も良好である。体内背部下端に「真賢」の墨書銘があり、願主か仏師の名と考えられる。雲を表した光背、装飾豊かな台座は江戸時代に多いもので、像も作風から見て江戸時代に入ってから造立と思われる。

波賀町指定文化財 〈美術工芸品〉

「太刀」

所在地 波賀町安賀435番地の1

所有者 波賀八幡神社

小林盛三

指定年月日 平成7年10月12日



種別	長さ	反り	目くき穴	銘文
太刀	80.6cm	2.6cm	1	八幡大菩薩

天文9年8月(1540)時の千草城主であった。大河原備中守之清が波賀八幡神社に、この太刀を奉納した。刀身には「八幡大菩薩」の神号があり、銘は「備州国住長船次郎左衛門尉勝光作 波賀上之方八幡宮爲御剣末代天文9年8月吉日 丹治大河原 備中守之清籠之也」とある。作者の勝光は、室町時代後期の備前国長船の刀工団の代表者で、文明から永正にかけての年紀作がある。(国史大辞典より)

春

波賀町指定文化財 〈無形民俗〉

## 「チャンチャコ踊り」



所在地 波賀町安賀435番地の1  
所有者 波賀八幡神社 小林盛三  
指定年月日 昭和61年 8月28日

起源は不明であるが十余種ある歌の文句から室町時代あるいは、鎌倉時代であるとも言われている。むかし七日七夜の暴風雨の災害があり、人の命も危うくなったので何かの祟であろうと神様に祈り、「この願いをかなえて下さいましたならば、氏子家居の続く限り踊りをお仕え致しますしょう。」と願をかけたのが始まりとされている。代表的なものとしては、入踊り、宝踊り、お座敷踊り、綾踊りなどがある。

波賀町指定文化財 〈無形民俗〉

## 「チャンチャコ踊り」

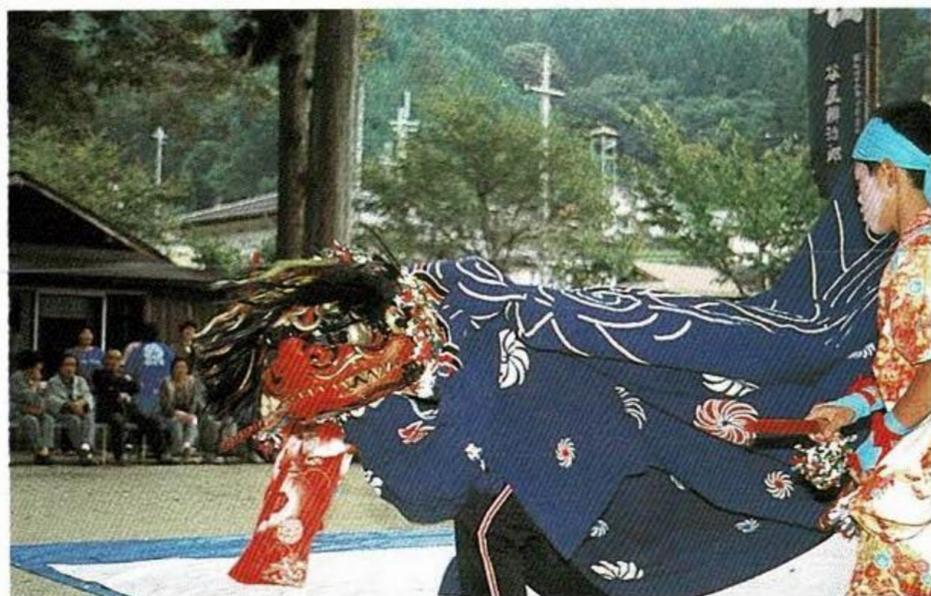


所在地 波賀町原665番地  
所有者 原八幡神社 小林盛三  
指定年月日 昭和61年 8月28日

起源は不明であるが十余種ある歌の文句から室町時代あるいは、鎌倉時代であるとも言われている。むかし七日七夜の暴風雨の災害があり、人の命も危うくなったので何かの祟であろうと神様に祈り、「この願をかなえて下さいましたならば、氏子家居の続く限り踊りをお仕え致しますしょう。」と願をかけたのが始まりとされている。代表的なものとしては、入れ踊り、境濱踊り、三花踊り、渡中踊り、児踊りなどがある。

波賀町指定文化財〈無形民俗〉

## 「水谷明神社の獅子舞」 みょう



所在地 波賀町上野1295番地

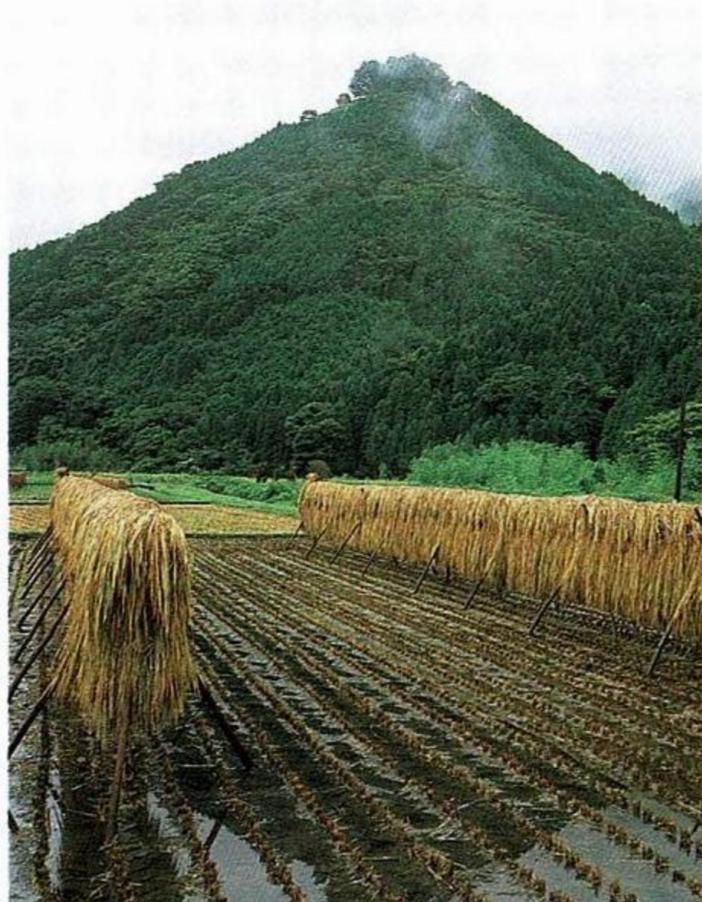
所有者 水谷部落

指定年月日 昭和61年8月28日

当部落の獅子舞は元来、上野部落に於て江戸末期の頃から行われ、宝殿神社の神楽獅子かぐらじとして舞い使われ、夏にはお盆に一般家庭の庭において先祖を敬う為に舞い使われていたようである。明治末期の頃になると、上野・水谷部落の若者達によって交互に使われ、次第に水谷部落が受け継いだそうである。以来、水谷部落では明神社の神楽獅子として五穀豊饒、家内安全を祈願して現在に至っている。舞には、屋島、毬取れ、法螺返し、花掛りはなかが、剣の舞などがある。

波賀町指定文化財〈史跡〉

## 「上野波賀城蹟」 うえのはがじょうせき



所在地 波賀町上野2番地の51

所有者 宝殿神社 上野部落

指定年月日 昭和61年8月28日

13世紀中頃、地頭として埼玉県秩父郡からこの地に移って来た中村氏や大河原氏が城主となり、ここを拠点にして赤松氏などの支配下で勢力を維持したものと思われ、戦国時代末期にさらに拡張・整備し、羽柴秀吉が播磨を制圧した時に、北の守りの拠点となった可能性も考えられる。この城は山陽道と日本海側を結ぶ因幡街道や、それと千種を結ぶ街道、三方に通じる街道を眼下にする戦略的な位置にある。ほとんど独立した山に築かれたために麓から本丸までの距離が短いので途中に多くの「郭」くるわを作って縦深をとっている。また、西側に小山（古城）を築き、一体となって敵軍を防ぐ工夫もしている。現在「波賀城史蹟公園」として整備されている。また、山頂の樹林は、兵庫県環境緑地保全地域10.1haの指定を受けている。

波賀町指定文化財〈史 跡〉

みやじ  
「宮路古墳」

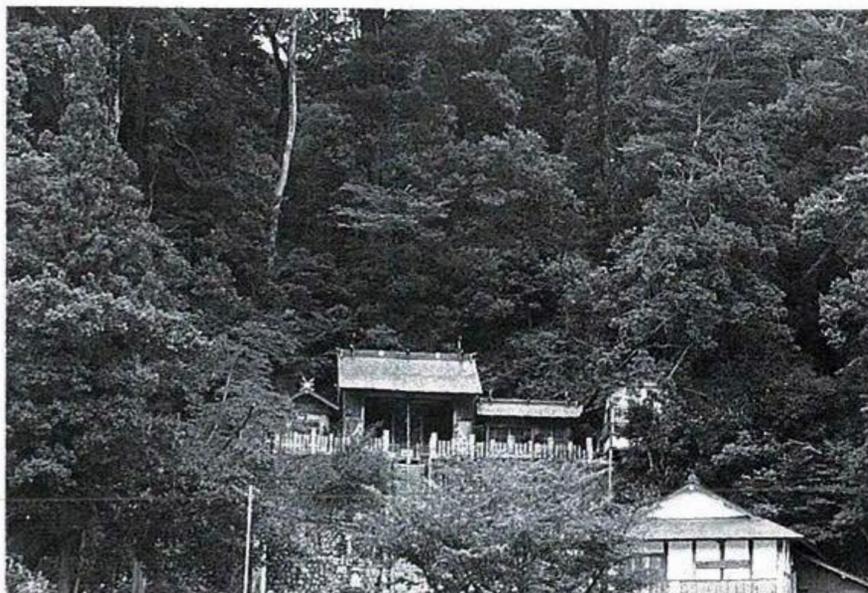


所在地 波賀町有賀字宮路  
461番地の25の一部  
所有者 尾崎隆繁  
指定年月日 平成7年10月12日

この古墳は、小高い丘の上に造られており、墳形はかなり変形し封土も流失している。石室の天井石は露出し真ん中の天井が無くなっている。南東の方向に開口がある片袖の横穴式石室古墳で石室に入ることができる。奥行きは4.9mで、幅は1.5mの古墳である。造られた時期は、古墳時代後期（6世紀ごろ）で、付近一帯を統治していた豪族の墓とされている。

波賀町指定文化財〈名 勝〉

しゃそう  
「上野宝殿神社社叢」



所在地 波賀町上野271番地  
所有者 宝殿神社 上野部落  
指定年月日 昭和61年8月28日

シラカシを高木層の主要素とし、幹周2～3mの大木が多い。また目通り4mに近いケヤキの巨木が数株あるほか、カヤ・イロハモミジ・ユズリハ・ハウノキなども見られる。低木層にはシュロ・ナンテン・ヒサカキ・シロダモ・チャノキなどがある。この社叢は内陸部の沖積地や丘陵地斜面下部に成立するシラカシ林の典型的な樹林で、規模も大きく学術的価値が高い。昭和58年3月、兵庫県環境緑地保全地域0.9haの指定を受けている。

波賀町指定文化財 〈天然記念物〉

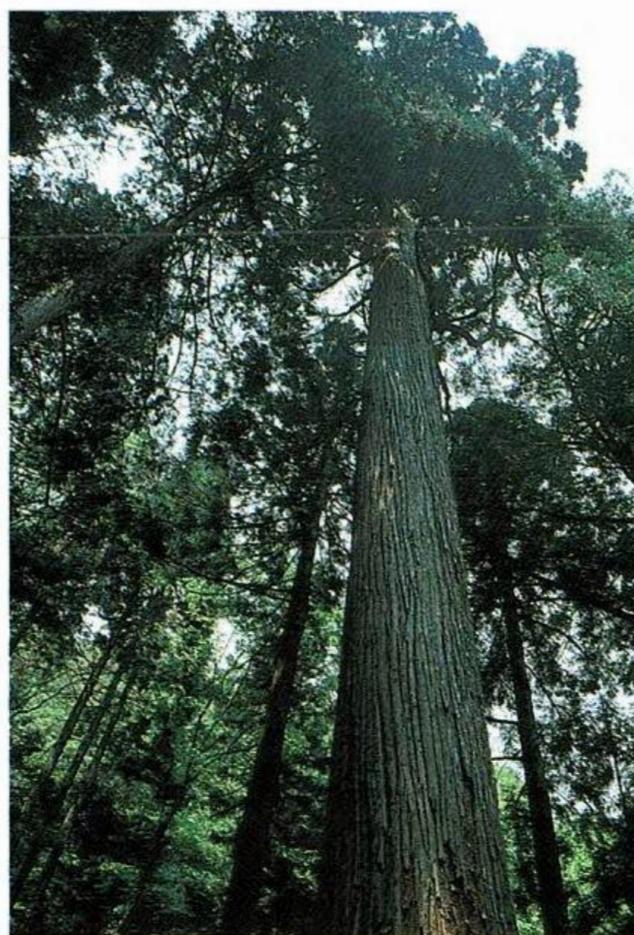
## 「小野諏訪神社の大スギ」

所在地 波賀町小野223番地

所有者 小野部落

指定年月日 昭和61年8月28日

社殿背後と南のやや谷まったところにある。1株は樹高約40m、目通り幹囲4.85mあり、樹幹に損傷がなく樹勢は旺盛である。南のやや谷まったところにある1株は樹高43m、目通り5mの壮大な無傷木であり、原八幡神社の夫婦スギとともに、町内では双璧のスギの巨樹である。推定樹齢ともに500年。



波賀町指定文化財 〈天然記念物〉

## はら 「原八幡神社の夫婦スギ」

所在地 波賀町原665番地

所有者 原有賀・原部落

指定年月日 昭和61年8月28日

町内で最も優れたスギの巨樹である。根部が接合し、ともに樹幹に損傷が認められず、樹皮が美しい。枯枝もなく壮大な樹勢旺盛な優良木である。大きい株は樹高約45m、目通り幹囲5.1m、小さい株は樹高約40m、目通り4.58mに達する。推定樹齢500年。





# 千種町

## 指定文化財一覧（千種町）

番号	指定	種別	名称	所在地	頁
1	県	有民	農村歌舞伎舞台	千種町河呂字山田	61
2	県	史跡	高保木たたら(製鉄)遺跡	千種町西河内字高保木	62
3	県	天然	中宮神社の大スギ	千種町河内字中須賀	63
4	町	建造	宝篋印塔(教信上人塚)	千種町黒土字中島	64
5	町	建造	一里堂	千種町下河野字竹の内	64
6	町	無民	チャンチャコ踊り	千種町千種東小学校	65
7	町	無民	千草念佛	千種町千草字上谷	65
8	町	史跡	宇野氏墓所	千種町千草字大寺	66
9	町	史跡	板馬見修験行場	千種町河呂字河久保	66
10	町	史跡	天児屋鉄山跡	千種町西河内字身連谷	67
11	町	史跡	荒尾鉄山跡	千種町河内字足谷日	67
12	町	史跡	高羅鉄山跡	千種町河内字足谷口	68
13	町	史跡	三室鉄山跡	千種町河内字真所	68
14	町	史跡	森の上鉄砂仕上場跡	千種町西河内字森の上	69
15	町	史跡	弥生住居跡	千種町河呂字山田	69
16	町	名勝	小河内滝	千種町岩野辺字山根	70
17	町	名勝	カナベの滝	千種町河内字真所	70
18	町	名勝	黒土の滝	千種町黒土字滝山	71
19	町	天然	めおとイチョウ	千種町岩野辺字秋久	71
20	町	天然	大アスナロ	千種町岩野辺字円の元	72
21	町	天然	クマノスギ	千種町西河内字中野	72
22	町	天然	オハツキイチョウ	千種町西山字垣内	73
23	町	天然	一の谷のお鍋	千種町西河内字森の上	73
24	町	天然	大コウヤマキ	千種町西山字門前	74
25	町	天然	八重垣神社社叢	千種町下河野字宮ノ下	74
26	町	天然	中宮神社の大ケヤキ	千種町河内字中須賀	75

兵庫県指定文化財  
〈有形民俗〉

所在地 千種町河呂字山田  
河呂地区の氏神の境内  
所有者 河呂自治会  
指定年月日 昭和45年3月31日

## 「農村歌舞伎舞台」



規模 間口9.95m、奥行き9.03m、床高0.93m、入母屋造、奈落を楽屋に利用する  
舞台構 皿廻式、回転面径7.06m、回転コマ外32ヶ、内16ヶ  
花道 L=5.03mW=1.32m 分解式  
上段 左右引分け式 5.85×1.75 H=0.39  
上座下座とも破風窓を有する

創建は江戸時代末期であるが明治30年に大改修がされ、昭和52年に屋根替えや腐朽部材の補修を行ったが、昭和59年の大雪により壊滅的な損傷を受けた。

地元の復元への熱意により、屋根を草葺きから鋼材葺きと変えたがあとは旧来の構造形状を固守して再建している。

葺張ふちやうには、扇形棧を配し透視図的效果をもたせる工夫は、他に例を見ない。

兵庫県指定文化財  
〈史 跡〉

所 在 地 千種町西河内字高保木の  
千種北小学校周辺

たかほぎ  
「高保木たたら(製鉄)遺跡」

所 有 者 千種町

指定年月日 昭和45年3月31日



本遺跡は昭和41年に町が開墾事業中に発見したもので、出土状況から自然風を利用した小型炉と思われる。炉は防湿のため、木炭や旧炉材を敷き固めた上に築炉しており、また、炉の大きさは短径1.0m、長径2.0m程度のもので3基検出されているが、これはいわゆる野だたらと言われるものである。

操業年代は、不詳であるが、開墾工事中に弥生式土器片が散見されている。また、本地域の立木は年中強風に煽られ西河内方向（西方向）へ傾斜したまま生育している。

現在は発掘調査のあと埋戻し覆土し保存している。

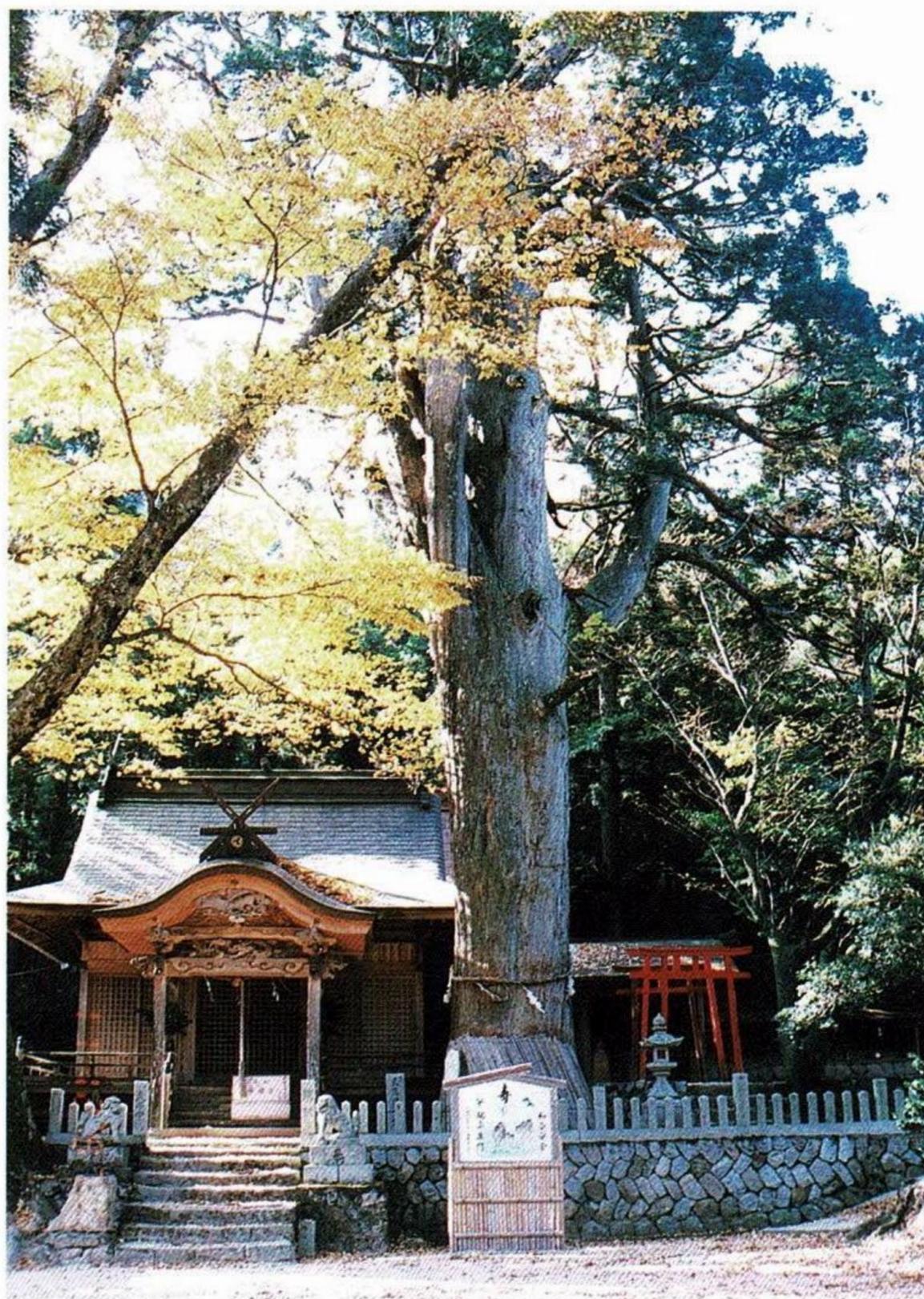
兵庫県指定文化財  
〈天然記念物〉

なかのみや  
「中宮神社の大スギ」

所在地 千種町河内字中須賀  
中宮神社

所有者 河内自治会

指定年月日 昭和40年3月16日



樹齢850年（推定）、枝張東西12.0m、南北24.0m、樹高41.5m、根回り9.6m、目通り幹  
囲6.4m

境内林として保護されていて、今も樹勢盛んに生育している。

樹形は、独立樹の様相で老齡期の樹冠を呈している。

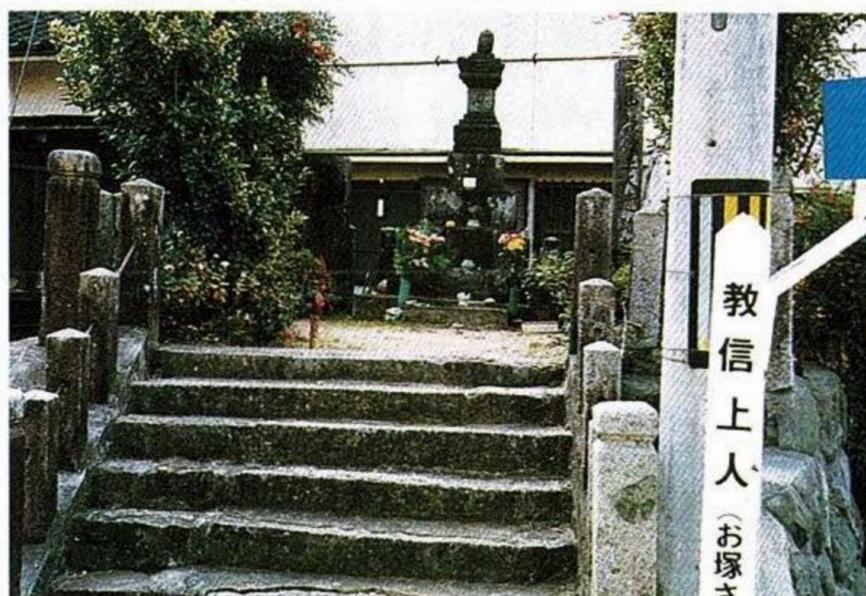
千種町指定文化財 〈建造物－石造〉

「宝篋印塔」(教信上人塚)

所在地 千種町黒土字中島

所有者 西蓮寺

指定年月日 昭和57年3月5日



千草念佛の教信上人を供養するために建てられたものである。教信上人は「荷送り上人」とも「教信沙弥」とも、また「阿弥陀丸」とも呼ばれ百姓の野良仕事を手伝ったり、重荷を運んでいる人を見れば送ってやったりして、苦渋の人々を救ってやりました。荷物を送って千種へ来た時に病を得て、黒土の平田の辺で落命したのでここに葬ろうとした処、上人の寺の加古郡西野口の人々も遺体を持ち帰ろうと大勢やって来て争いとなり、役人に調停を頼んだところ、上半身を加古郡へ下半身を千種で祀ることになり、ここに塚を建てて供養している。

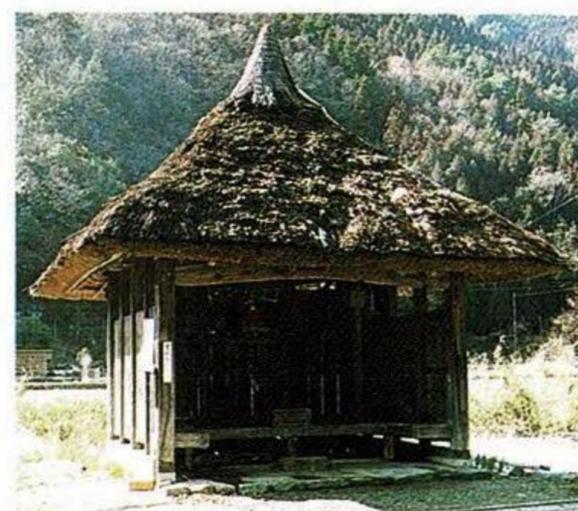
千種町指定文化財 〈建造物〉

いちりどう  
「一里堂」

所在地 千種町<sup>けこの</sup>下河野字竹の内

所有者 下河野自治会

指定年月日 昭和57年3月5日



江戸時代に主要街道に設置された道標の一種で一里塚や一里堂が各地に残っている。この堂には六体地蔵がお祀りしてあり、数々の旅人が休んだり雨宿りをしたことであろう。明治以後は、新四国巡礼の行場と合体した形となって現在に至っている。

千種町指定文化財〈無形民俗〉

## 「チャンチャコ踊り」



伝承者 千種町千種東小学校 児童

所有者 鷹巣自治会

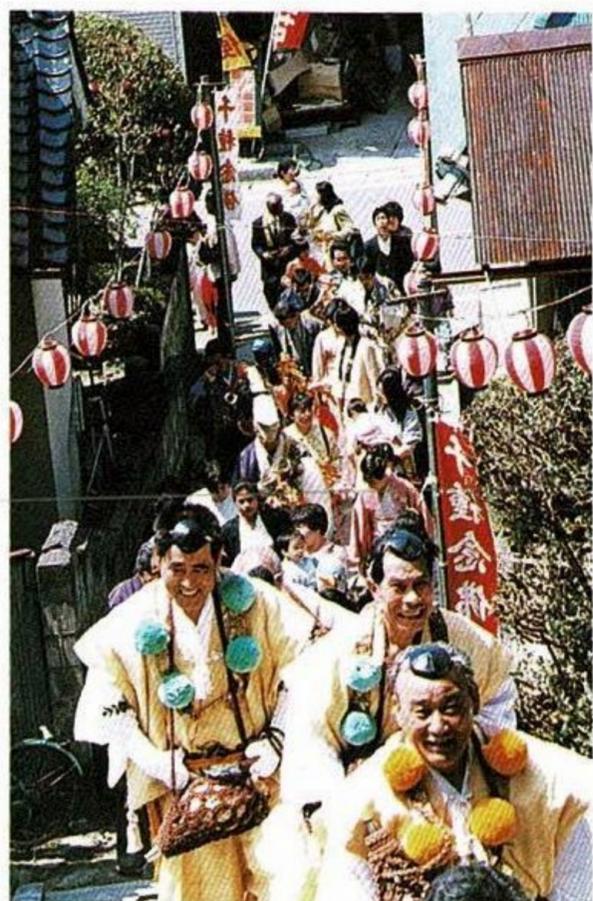
指定年月日 昭和57年3月5日

但馬各地及び宍粟奥地には、ザンザカ踊りとかチャンチャコ踊りが踊り継がれているが、起源も由来もはっきりしない。

鷹巣の踊りは明治時代までは原形のまま伝承されていた。しかしその後途絶えていたものを、昭和52、3年頃に千種東小学校長に着任した林正男氏が調査研究して復元が実現したものである。

千種町指定文化財〈無形民俗〉

## ちくさねんぶつ 「千草念佛」



所在地 千種町千草字上谷 西蓮寺

所有者 西蓮寺

指定年月日 昭和57年3月5日

貞観8年（西暦866年）法相宗の高僧教信上人は寺を出て困っている人民に救済をしながら千種の地に至り、病にとりつかれ不帰の人となった。里人はこの遺徳を慕って年々法要を営むようになったのが千草念佛である。

千種町指定文化財〈史 跡〉

## 「宇野氏墓所」

所在地 千種町千草字大寺

所有者 千草自治会

指定年月日 昭和57年3月5日



天正8年5月天下平定を日ざして中国攻略をうって出た羽柴秀吉軍に追討を受けた山崎長水城主一行は、美作小原城へ逃れようとしてここまで落ちのびたものの増水していた千種川に行く手を阻まれ、主従は、武運尽きこの地で自刃した。

後に乳母に抱かれて逃れた宇野氏の遺児が五輪塔を建てて供養した、と伝えられている。

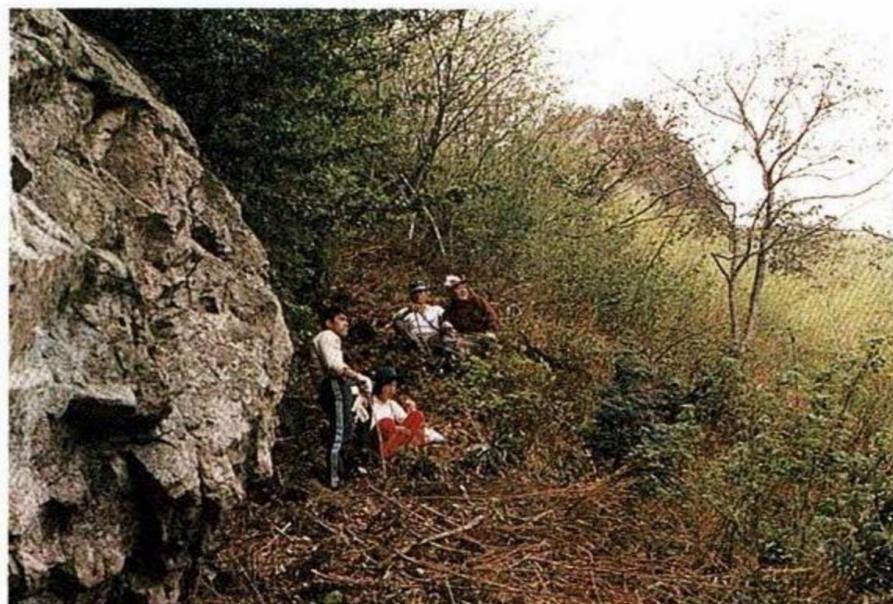
千種町指定文化財〈史 跡〉

## いたばみ ぎょうば 「板馬見修験行場」

所在地 千種町河呂字河久保

所有者 板馬見保存会

指定年月日 昭和57年3月5日



兵庫県下第三の高峰後山（1345m）は、西暦650年代「役の小角」によって開基された山岳宗教の行場として入峯修行が行われてきた。険しい断崖絶壁を利用して作られた行場は50ヶ所近くあったが、岩石の風化により危険な所や崩壊した所もある。

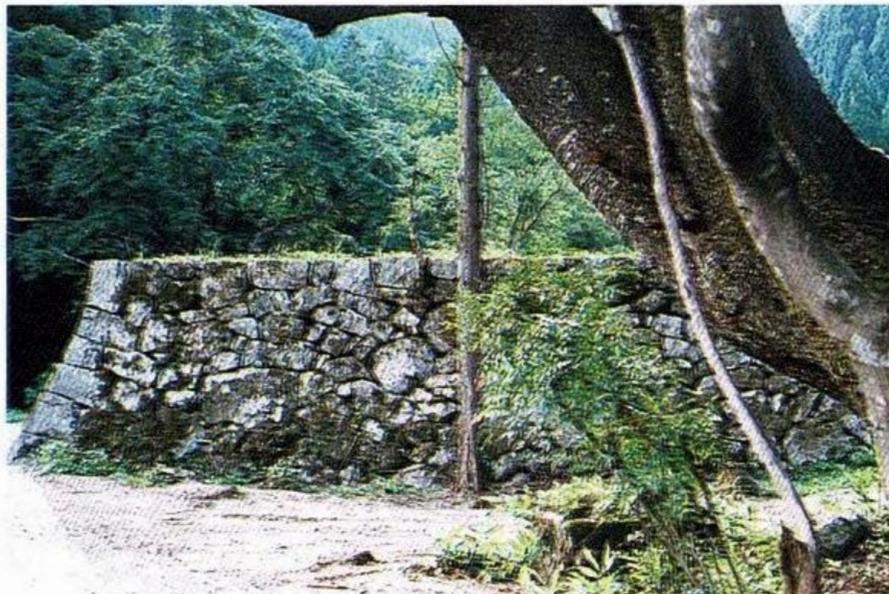
千種町指定文化財〈史 跡〉

てんごや  
「天児屋鉄山跡」

所在地 千種町西河内字身連谷

所有者 千種町

指定年月日 昭和57年3月5日



城塞を思わせる大きな石垣で区画された天児屋鉄山は、江戸時代から明治18年まで、千草鉄を大量に産出した製鉄遺構である。石垣も立派であるが、規模の大きさでも全国屈指のものである。現在は、遺構を公園化し学習館ではこの遺構の復元模型や沢山の製鉄に関する資料や遺品類を展示している。

千種町指定文化財〈史 跡〉

「荒尾鉄山跡」



所在地 千種町岩野辺字荒尾

所有者 荒尾春義

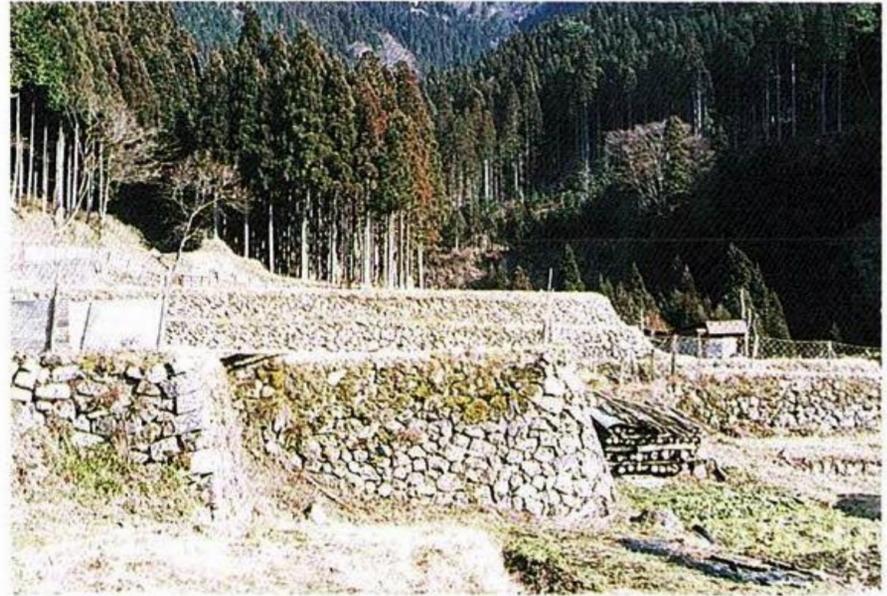
指定年月日 昭和57年3月5日

荒尾の集落より、500m程逆のぼったところで荒尾川の左岸に築かれた遺構で、明治20年頃まで操業されたようである。ここの遺構は天児屋より小規模であるが、巾2.0mの通路が中央に貫通し道の左右に作業の順序に合わせて施設が配置されている点と、鉄塊を破碎するのに水車を用いた用水路が残っているのが特徴である。又、墓地の中に三河国の住人のものがあり、人の交流の広さを物語っている。

千種町指定文化財 〈史 跡〉

こうら  
「高羅鉄山跡」

所在地 千種町河内字足谷口  
所有者 川井正数他  
指定年月日 昭和57年3月5日



千種川と足谷川が合流する北側高台に高羅鉄山があった。現在は水田となっており、場所をはっきり特定することはできない。今後、開発事業が行われる場合には、発掘調査により確認されることであろう。

ここで今分かっていることで特筆すべきことは、対岸にある墓地の数が150墓近くあることと、大部分の墓に名が刻んであること、弘化4年に亡くなった人のうち特に子供の墓が多い。

千種町指定文化財 〈史 跡〉

みむろ  
「三室鉄山跡」



所在地 千種町河内字真所  
所有者 河内自治会  
指定年月日 昭和57年3月5日

三室高原キャンプ場の入口に外足かんな場と呼ばれる鉄山があったようだが道路の拡張工事でほとんど削り取られている。地表から3.0m程下った切取面に木炭や鉄滓の混じった層の露出が見られる。

それと、50mほど下った谷川の端に砂鉄を精選した「かんな仕上げ場」が残っている。

千種町指定文化財〈史 跡〉

## 「森の上鉄砂仕上場跡」

所在地 千種町西河内字森の上

所有者 亀井孔允他

指定年月日 昭和57年3月5日



ちくさ高原スキー場への途中に大釜の滝があるが、これの対岸の杉林の中一帯には砂鉄を砂や泥や夾雑物きょうざつぶつとに選り分けて仕上げをした「かんな仕上げ場」が300m余りにわたって、大小の池や滝を人工的に石で作っている。この規模は全国最大のものと思われる。

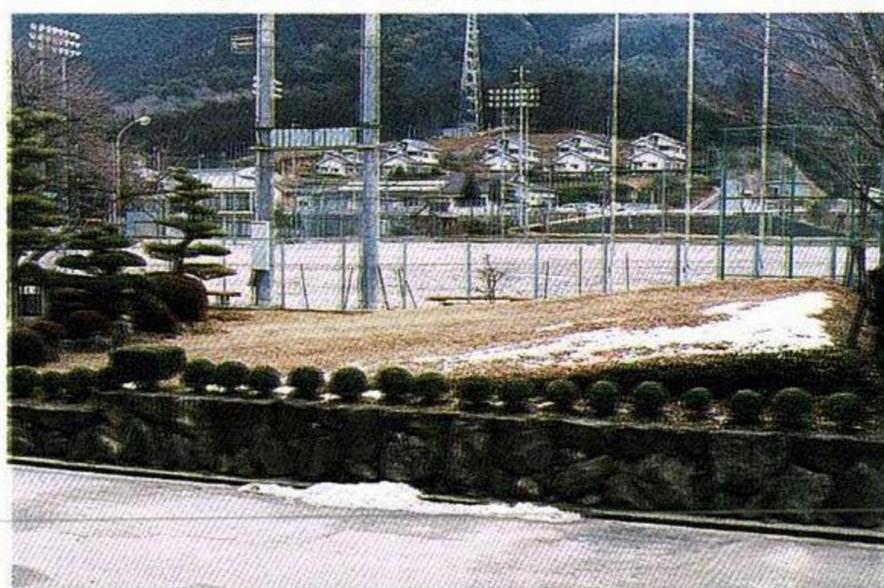
千種町指定文化財〈史 跡〉

## 「弥生住居跡」

所在地 千種町河呂こうろ字山田

所有者 千種町

指定年月日 昭和57年3月5日



町民グラウンド付近は、大森苗圃びょうほといわれて国有林に植えるスギ、ヒノキ苗を育てる畑に開墾されたが、この開墾の際に沢山の土器片が出土（一部資料館展示）したと言われており、町民グラウンド造成の時に発掘調査をした結果、推定25戸の弥生時代の住居が発掘された。隅丸方形住居と言われ、大体3.5m～4.0m四方の大きさと、内部には水を貯めていたと思われる土壇（土に掘込んだ穴）や焚火をした跡が残っている。

最も重要と思われる部分は、埋めもどし中学校の前庭や駐車場、農園として残している。

千種町指定文化財〈名勝〉

## おごうち 「小河内滝」

所在地 千種町岩野辺字山根  
県行造林地内

所有者 千種町

指定年月日 昭和57年3月5日

高17.0m、巾11.0m

深山幽谷の風情に勝れ景勝地であり、  
植松山登山道の近くにある。

県行造林として造林され、人工林の  
スギ・ヒノキに覆われて昔の景観に戻  
りつつある。



千種町指定文化財〈名勝〉

## 「カナベの滝」



所在地 千種町河内字真所

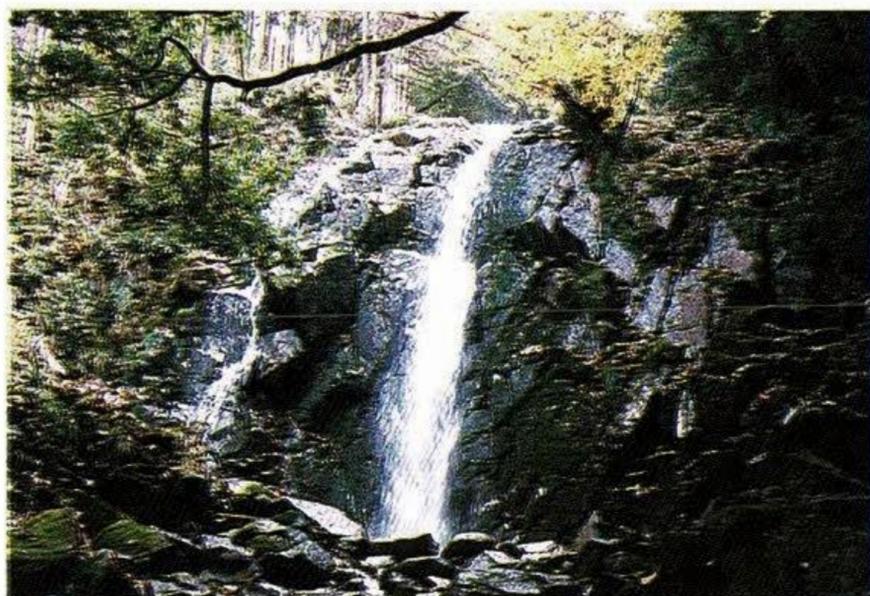
所有者 滝山神社

指定年月日 昭和57年3月5日

町内最大の水量を誇り滝壺に落ちた水が2 m近く跳ね上がり壮観を呈す。周辺はナラ、カエデなどの広葉樹の古木が茂り、すばらしい景観であり、キャンプ場近くにあって参観者も多い。

千種町指定文化財〈名勝〉

くろづち  
「黒土の滝」



所在地 千種町黒土字滝山

所有者 黒土自治会

指定年月日 昭和57年3月5日

高14.0m、巾12.0m

町内では2番目に大きな滝で、年中水量豊かなところから昭和初年には県営の発電所が操業していた時期もあった。

千種町指定文化財〈天然記念物〉

「めおとイチョウ」

所在地 千種町岩野辺字秋久

二宮神社の境内

所有者 二宮神社

指定年月日 昭和57年3月5日

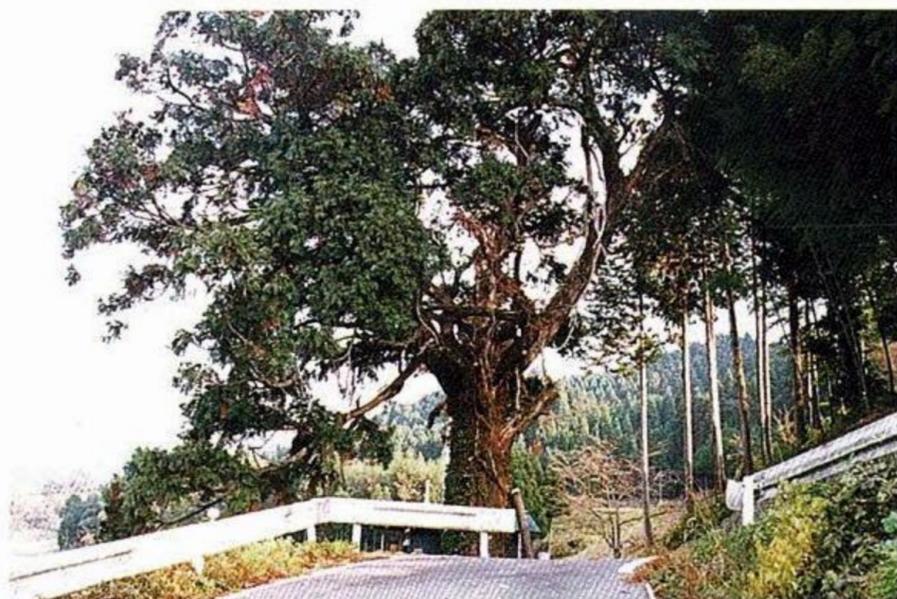


樹齢60年（推定）、樹幹根元径2.93m、胸高径大1.74m、小1.32m、樹高大18.0m、小13.0m 本来イチョウは、雌雄異株のものであるが、このイチョウは一本の株より分枝した一方の株が結実するもので、他に例を見ない珍しいイチョウである。

社叢林の外縁にあって生育状態は良好である。

千種町指定文化財〈天然記念物〉

## 「大アスナロ」



所在地 千種町岩野辺字円の元  
円の元橋南

所有者 円の元隣保

指定年月日 昭和57年3月5日

樹齢135年（推定）、樹高14.0m、枝張東西9.8m、南北14.1m、胸高幹囲3.35m。  
スギ・ヒノキ・マツなどと同様に造林用の樹種で東北、北陸地方で大面積造林地がある。  
能登地方では、輪島塗漆器の木材材として利用が多い。

千種町指定文化財〈天然記念物〉

## 「クマノスギ」

所在地 千種町西河内字中野  
峯王神社

所有者 西河内自治会

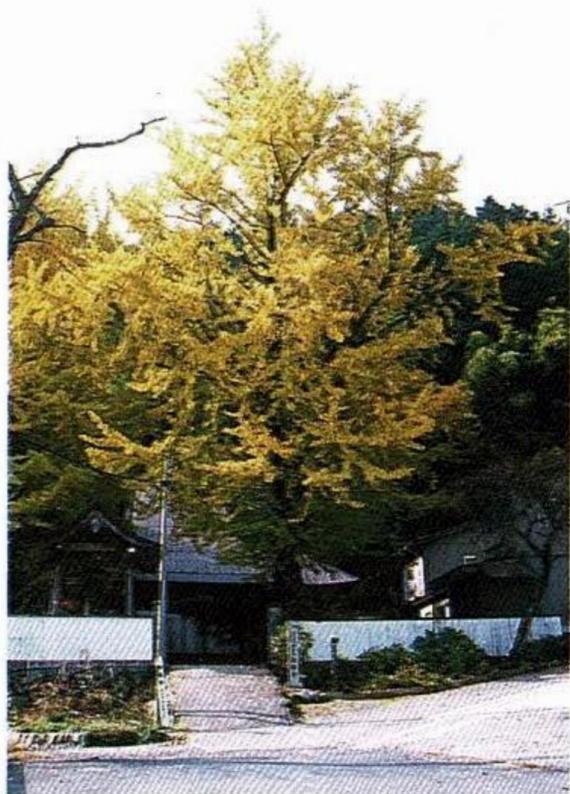
指定年月日 昭和57年3月5日



クマスギともチクサスギとも言われ生枝が地上に落ちて水分の多い所であればそのまま根を下して生育する、いわゆる伏条枝による増殖が可能な種類である。

千種町指定文化財〈天然記念物〉

## 「オハツキイチョウ」



所在地 千種町西山字垣内  
教福寺境内

所有者 教福寺

指定年月日 昭和57年3月5日

イチョウは通常雌雄異株で、雌木が花をつけて結実する。この木は葉に雌花を生じ結実したオハツキイチョウである。

オハツキイチョウは葉に種子またはおしべの<sup>やく</sup>葯がついて、シダの葉に似た形態を示すものであると言われ、植物進化の研究上極めて意義のあるものである。

千種町指定文化財〈天然記念物〉

## いちのたに なべ 「一の谷のお鍋」



所在地 千種町西河内字森の上

所有者 西河内自治会

指定年月日 昭和57年3月5日

雨乞いの霊験あらたかな鍋ヶ森神社のご神体で火山活動時の貫入、風化による現象でポットホール（甌穴）と呼ばれるものである。この穴をさらえたり、掃除をすると大雨に見舞われると言い伝えられ人々から畏怖されている。

千種町指定文化財 〈天然記念物〉

## 「大コウヤマキ」



所在地 千種町西山字門前  
仙光寺

所有者 奥西山自治会

指定年月日 昭和57年3月5日

場所は特定できないが、鳥谷から笛石山のどこかにあったと言われる栗尾城の赤松氏配下別所氏の祈願所であったと言われており、そこを管理していた人か、村人の誰かが植えたものが今も生育しているものであろう。コウヤマキはシキビとともに仏花としてよく用いられる。

千種町指定文化財 〈天然記念物〉

## 「八重垣神社社叢<sup>しゃそう</sup>」



所在地 千種町<sup>けこの</sup>下河野字宮ノ下

所有者 下河野自治会

指定年月日 昭和59年6月25日

お宮の境内林はスギ、ヒノキの大木が多いものであるが、このお宮の境内林はカシの木を中心にツバキ、サカキの常緑樹が目立つ。こうした樹は照葉樹とも呼ばれ、大昔から神が宿ると考えられ神聖視されてきた。

今でも私たちの暮らしの中の神事や仏事にはこうした樹を使うが、このような文化を「照葉樹林文化」と呼んでおり、我々が農耕生活を始める以前から引継いでいる文化だともいわれている。

この社叢林は代表的なもので、町内では大森神社、福海寺、西方寺の境内林にも見られる。

## 「中宮神社の大ケヤキ」



所在地 千種町河内字中須賀

所有者 河内自治会

指定年月日 昭和57年3月5日

樹齢250年（推定）枝張東西18.0 m、  
南北約19.0 m、樹高39.5 m、周囲根回  
8.0 m、胸高幹囲5.5 m

境内林として県指定の大杉とともに  
保護されており、樹勢は旺盛で町内最  
大のものである。

## あとがき

近年文化財への関心が高まるなか、郡内の国、県、町指定の文化財を一冊の冊子にまとめる事を計画し、各町及び各町教育委員会のご協力のもと、ここに念願の冊子が宍粟郡文化協会連絡協議会の手によって完成いたしました。

郡内にはこれら指定文化財をはじめまだまだ数多くの文化財があります。先人の残したこれらの文化財を皆様方と共に大切に後世に伝え、またこの小冊子が少しでも皆様方のお役に立ち、宍粟郡の文化の発展に寄与することを願いたします。

後になりましたが、この冊子の編集にあたってご協力頂きました関係各位に心よりお礼申し上げます。

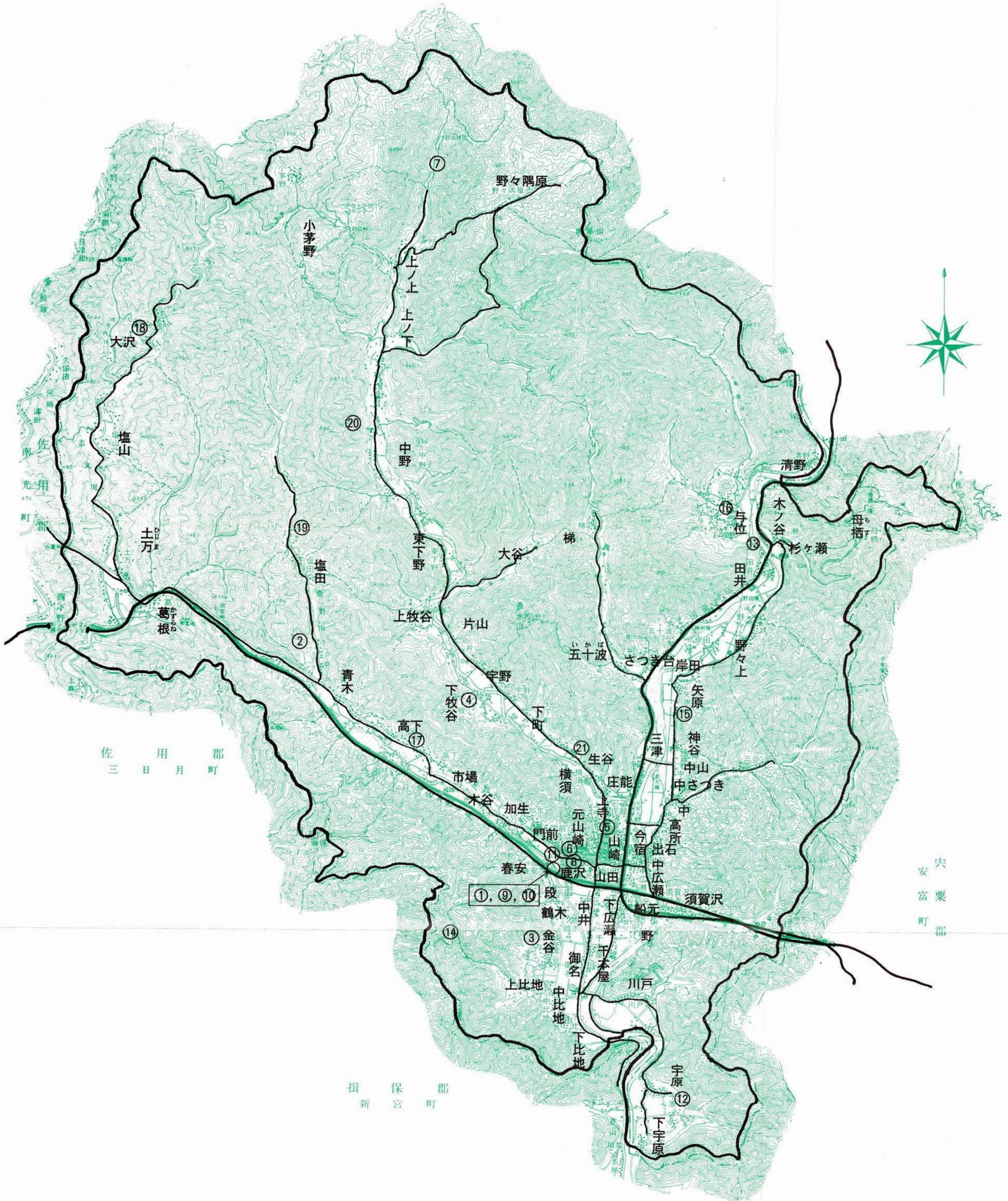
編集委員	委員長	河 本 雅 視		
	山崎町	藤 村 清 一	一宮町	讚 岐 守
	”	長 川 耕 一	波賀町	早 川 博 康
	安富町	中 村 道 和	千種町	妙 見 恒 夫

### しそうの文化財

発行年月	平成10年5月
編集・発行	宍粟郡文化協会連絡協議会
協力機関	宍粟郡5町・各町教育委員会
資料提供	各町教育委員会

印 刷 (株)支林館印刷所

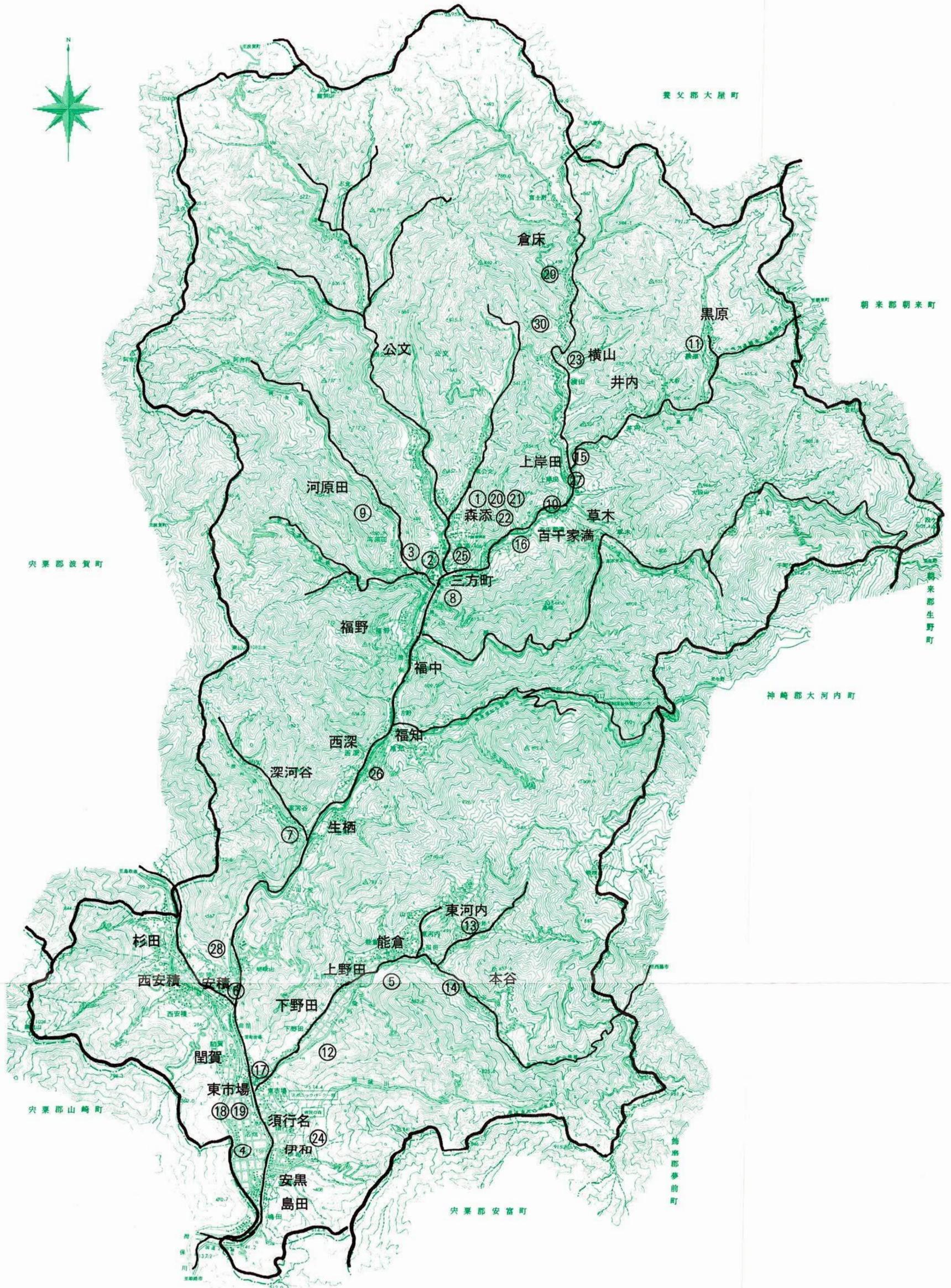
# 指定文化財所在地 (山崎町)



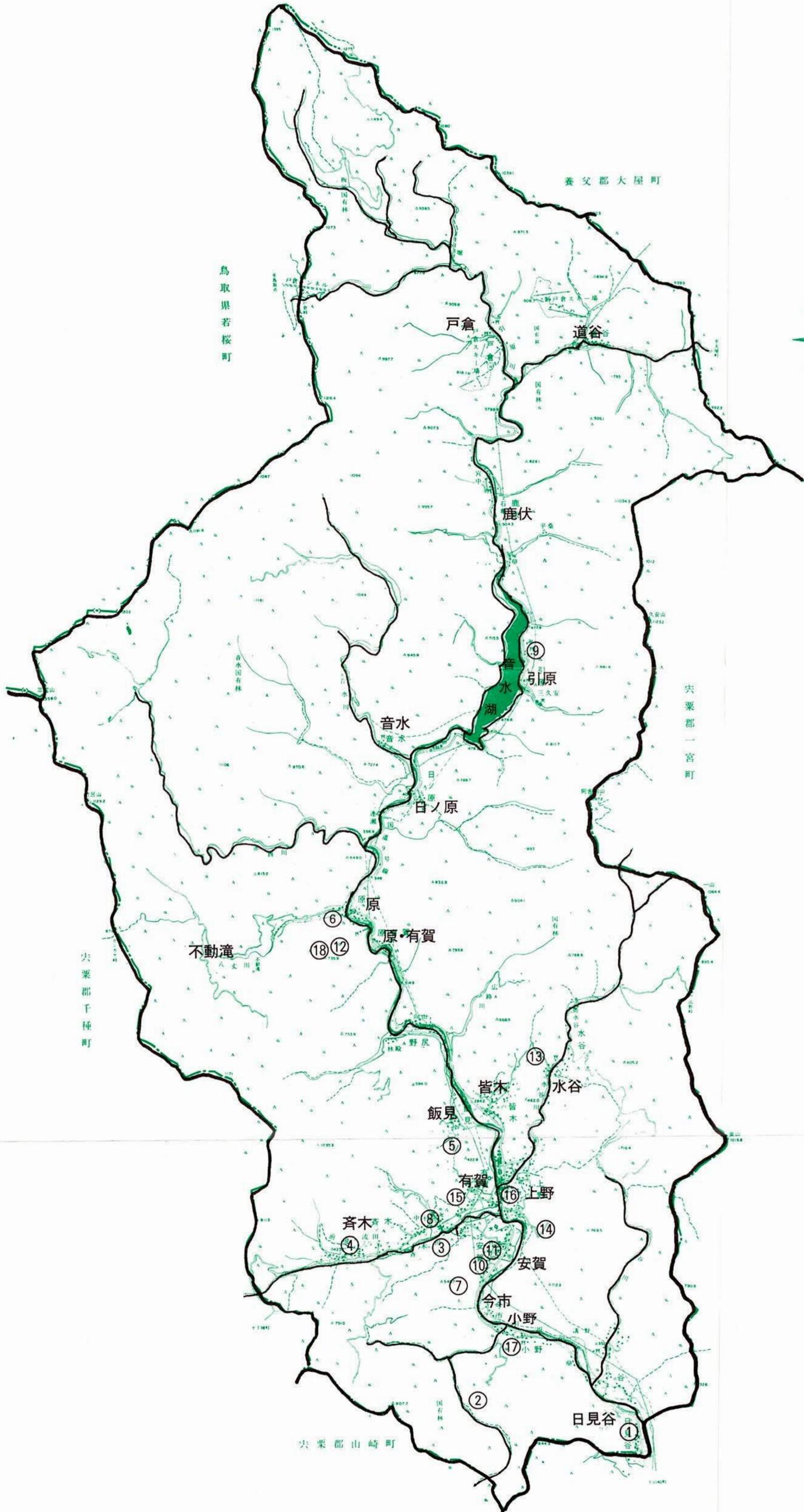
# 指定文化財所在図 (安富町)



# 指定文化財所在図（一宮町）



# 指定文化財所在 (波賀町)







宍粟郡文化協会連絡協議会